

北海道の市と町と村を

PCにダウンロードしてから、「しおり」をクリックして下さい。

本文欄外下のURL、メールアドレスをクリックするとHP、メールが開きます。

ご紹介

歴史・観光・食の欄

179ある市町村のうち色塗部の22の市・町・村をご紹介します。北海道のまちは出身、移住元の地域と深い歴史の繋がりがあります。

2020年12月現在

ご存じでしたか？

北海道倶楽部とは

北海道倶楽部は、昭和2年に新渡戸稲造博士等によって東京に設立された公益社団法人です。

北海道の健全な発展に寄与することを目的とし、北海道等のための広報活動、地域活性化事業の支援、北方領土返還運動、ふるさと納税等寄附の推進運動、北海道新幹線早期実現運動などの事業を行っています。

北方領土返還運動

を行っています



国土地理院電子地図より



はほまい 歯舞諸島



バッジ頒布について

-1週間程度で発送します-

北方領土返還運動推進バッジ

- 「ブラウンリボン」バッジ
- 「千島桜」バッジ



早期実現北海道新幹線バッジ



バッジお申込方法

バッジ1組1,000円(1種類ごとに4個一組)

1組ごとに、バッジの種類を明記のうえ、「1000円分の切手」と「返信先を記入した120円切手を貼った返信封筒」を同封の上、下記住所へ郵送して下さい。(1組毎に返信用封筒が必要です。)



色丹島 2015年8月



各市町村の行事はコロナウイルス感染の影響で中止や延期の可能性があります。

北海道の市と町と村を ご紹介

目次

しよさんべつ 初山別村のご紹介	……2
えんべつ 遠別町のご紹介	……6
てしお 天塩町のご紹介	……10
あさひかわ 旭川市のご紹介	……14
しべつ 士別市のご紹介	……18
なよろ 名寄市のご紹介	……22
たかす 鷹栖町のご紹介	……26
ふらの 富良野市のご紹介	……30
ひがしかぐら 東神楽町のご紹介	……34
とうま 当麻町のご紹介	……38
あいべつ 愛別町のご紹介	……42
びつぶ 比布町のご紹介	……46
ひがしかわ 東川町のご紹介	……50
かみかわ 上川町のご紹介	……54
かみふらの 上富良野町のご紹介	……58
びえい 美瑛町のご紹介	……62
みなみふらの 南富良野町のご紹介	……66
なかふらの 中富良野町のご紹介	……70
しむかつぶ 占冠村のご紹介	……74
わつさむ 和寒町のご紹介	……78
けんぶち 剣淵町のご紹介	……82
しもかわ 下川町のご紹介	……86
公益社団法人北海道倶楽部のご紹介	……90

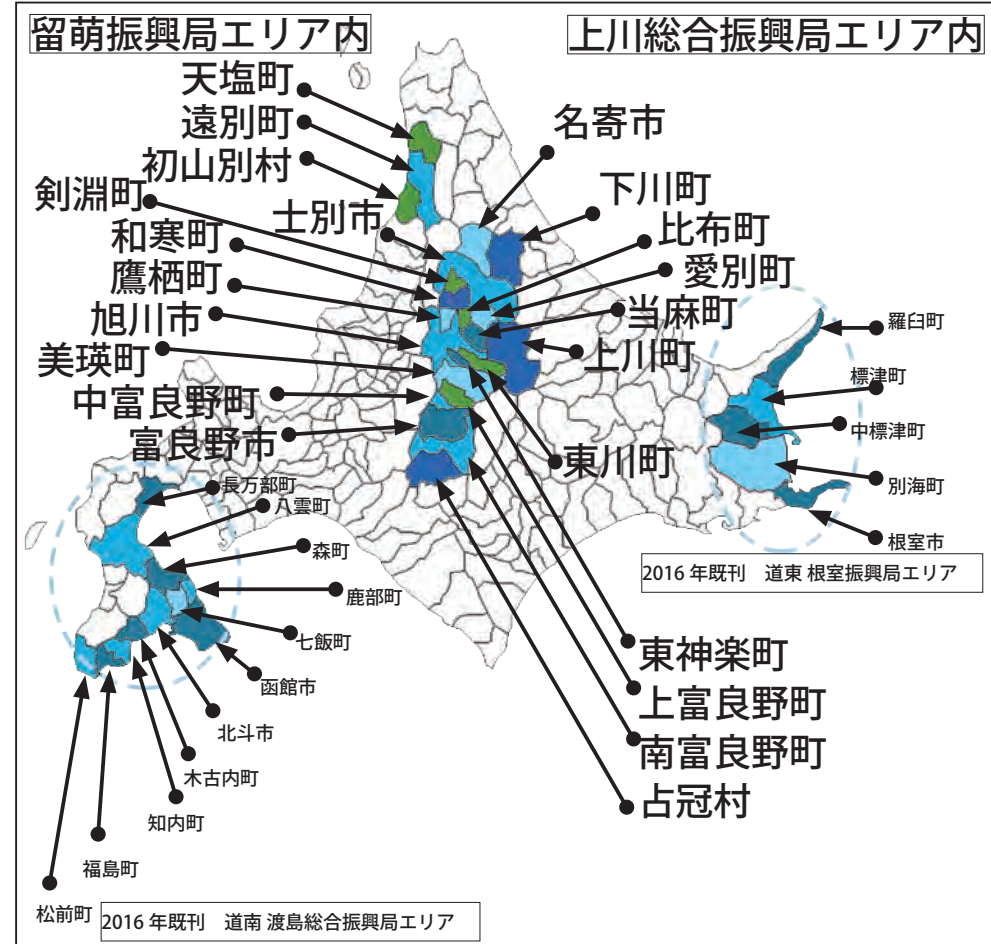
PCにダウンロードしてから、「しおり」をクリックして下さい。

本文欄外下の URL、メールアドレスをクリックすると HP、メールが開きます。

北海道
留萌振興局

北海道
上川総合振興局

2020 年 北海道 "NOW" 掲載の 22 市町村



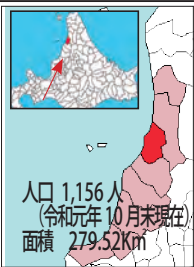
この冊子「北海道の市と町と村をご紹介」は北海道情報紙の北海道倶楽部・北海道 "NOW" (2020 年 12 月号) の別冊として刊行しました。今回掲載したまちは、北海道 "NOW" の 2020 年 1 月～12 月 (2 月は休刊) に掲載した 22 市町村のご紹介をすべて再録したものです。なお、再録に当たり情報を一部更新しました。

北海道開拓の歴史などに関しても記され、食や観光のみならず興味深い内容が含まれております。記事は、北海道及び掲載市町村の方のお世話になっております。御礼申し上げます。有り難うございました。

公益社団法人北海道倶楽部
2020 年 12 月 1 日

初山別村とは

概要



明治33年(1900年)に開拓され、初山別村は留萌振興局管内の中部に位置し、南は羽幌町、北は遠別町に隣接した農業と漁業が中心の小さな村となっております。都会のような便利さはありませんが、日本海に沈む夕日、満天の星空、前浜で獲れる海の幸など、初山別村ならではの自然を満喫することができます。

●村名の由来

村名の由来としては、アイヌ語で「ソエサンベ

ツ」、「滝がそこで流れ出ている川」の意から転訛したものとされています。なるお、ほかの地名解としては更科地名解の「シユシユサムベツ」、「柳原の近くの川」などがあります。

●村章

全体的に活動する初山別の姿を強調したもので、「しまんべつ」の「し」を中心として、3方にのびる山状の図柄は初山別の「山」を表したものであり、かつ、南部・中部・北部の本村3地区の発展を象徴したのもとなっております。



○イベント情報
初山別村で開催されている主なイベントをご紹介します。

●岬まつり

みさき台公園内にて毎年8月の第1土・日曜日に2日間の日程で村を挙げてのビッグイベント「岬まつり」が開催されます。屋台が立ち並び、花火大会や演歌歌手をお招きしての歌謡ステージ、抽選会などで大盛況となります。歌謡ステージでは、STVラジオの公開録音も行われ、後日、岬まつりの様子が放送されます。また初山別沖で水揚げされたタコをバトン代わりに行う「タコ



リレー」というユニークな企画も行われます。

●星まつり

岬まつりの開催に合わせ、しまんべつ天文台で星まつりが行われます。近年では子供を対象としたペットボトルロケット製作教室が行われ、完成したロケットを打ち上げる「飛行記録会」や、プラネタリウム上映、天体観測や天文講座などが行われます。



●有明獅子舞
天狗や獅子などに扮装し、太鼓や笛の音とともに数種類の演舞を披露する「有明獅子舞」は、昭和



60年(1985年)に初山別村の無形文化財として指定されており、有明地区において長年にわたり奉納が行われていました。地域の人たちの高齢化や若い世代の村外への流出による担い手不足や少子化による人口減少により平成21年(2009年)を最後に休止となっていました。平成26年(2014年)に地域おこし協力隊の呼びかけのもと、有明獅子舞有志の会を立ち上げ、再び奉納が行われるようになりました。毎年9月に開催されます。

町の取組み

「地域経済を支える産業の振興」、「福祉の向上と暮らしの安心・安全」、「心豊かな人材を育む教育の振興充実」、「みんなで力を合わせ協働のまちづくり」の4つを基本方針として、持続可能な地域社会の構築を目指しています。

○地域経済を支える産業の振興

本村の基幹産業である農業の持続的発展と農村生活の安定に向け、新規就農に積極的な人を支援するなど、担い手対策を重点的に推進しています。研修制度や研修時・就農時の支援制度を設けており、手厚いサポートが受けられます。漁業や林業においても経営の安定化に向け、漁港整備や

森林整備、担い手支援対策に取り組んでいます。

○福祉の向上と暮らしの安心・安全

高齢者福祉として、生活支援コーディネーターを各地区に配置し、自主的な活動を支援しています。また、ふまねつと運動の普及など介護予防にも取り組んでいます。「減塩」、「食物繊維

の摂取」、「笑い」の3つのテーマを重点に据え、生活改善の定着など健康づくり運動を推進し、運動教室やチャレンジマイレージなどの健康づくり事業を実施しています。災害発生時の対応として地域防災力の強化を図り、発電機の充足やJアラート、メール配信、屋外スピーカーなどによる迅速な情報伝達を行える体制を推進しています。

○心豊かな人材を育む教育の振興充実

基礎的、基本的な知識の定着や人間性豊かで、創造力に富むたくましい児童生徒の育成に努め、家庭・学校・地域が一体となり、より良い教育体制づくりに取り組んでいます。

○みんなで力を合わせ協働のまちづくり

地域特性を生かした施策を展開し、村民みんなで力を合わせる協働の村づくりに向け、住民の声を聞く場である「お茶の間懇談会」を開催するなど情報の共有化を行っています。また、近隣市町村や関係機関との連携や機能分担を行い、住民生活の向上や効率的な行政運営を推進しています。

○ふるさと納税

・初山別村の応援団になってください

初山別村を応援しようとする方々による寄附金を財源として、寄附者の意向を反映した事業の展開を図ることにより、個性豊かで活力ある村づくりに資することを目的としています。ふるさと応援寄附は、一般的に「ふるさと納税」と呼ばれています。生まれ育ったふるさとや心のふるさと、応援したい自治体などに対し、寄附をすることにより、所得税や住民税から一定限度額が控除される制度です。応援寄附していただく寄附金は、村の条例により、5つの事業から指定していただき、それぞれの目的事業に使用されます。また、1万円以上の寄附をされた方に本村の特産品を記念品として贈呈します。詳細についてはホームページをご確認ください。



「星空に夢とロマンを求めて 初山別村」

観光スポット

○みさき台公園

日本海を見下ろす高台に広がる20万㎡弱の広大な敷地の公園となっています。水平線には日本海に浮かぶ島々(利尻島、天売島、焼尻島)が見られます。



○みさき台公園
ので、遠方からでも気軽にキャンプをしに来ることができます。



また、緑の芝生が広がるキャンプ場・オートキャンプ場を有しており、パ

その他にも海水浴場をはじめ、パークゴルフ場や全長450mのゴーカート場、温泉宿泊施設「しよさんべつ温泉ホテル岬の湯」なども公園内にあり、公園全体が、「道の駅☆ロマン街道しよさんべつ」に登録されています。

ンガローやカーサイトが

○しよさんべつ天文台



令和元年(2019年)で開設30周年となりましたしよさんべつ天文台はみさき台公園内にある施設です。道北随一の大きさを誇る65cmフオーク式反射天体望遠鏡が設置されており、夜空に輝く星を間近で見ることが出来ます。また、本村だ

○金比羅神社



金比羅神社はみさき台公園に位置し、海の中に堂々とたたずむ赤い大鳥居

建物(の形はアメリカのアポロ計画で使われた月着陸船をモデルとしており、ドームから斜めにのびる支柱は東西南北を現しています。1人でも多くの人々に気軽に星空を楽しんでもらいたいという願いでつくられ、宇宙時代の夢と村づくりの夢を結びつける施設としてご利用していただきたいと考えています。



けに通用する星に好きな名前を付け登録する「マイスターズシステム(MYSTARS SYSTEM)」を行っており、旅や結婚・出産などの記念に登録される方に人気となっています。マイスターズシステムの制度は平成7年(1995年)4月に宣言され、同年7月から登録受付が開始されました。

また、海の中に建つ鳥居に重なる夕日は、絶好のシャッターポイントとなっています。

また、海の中に建つ鳥居に重なる夕日は、絶好のシャッターポイントとなっています。

○桜ロード



初山別村南部の有明地区において、国道から有明ダムまでの道路沿いに約1,200本の桜の木が植えら

にあつたらもつたいない、とお札を海に返しました。しかし次の日もまた同じ場所でお札が見つかり、返しても返しても、お札は戻ってきたので、漁師さんは近くの岩場にお札を祀ることにしました。その結果、この付近での海難事故がほとんどなくなったという言い伝えがあります。

行するドライバーの目にとまるよう、国道からの入口には「桜ロード」と書かれた幟が立てられています。

伝えがあります。

大正、昭和と2回にわたって有志による御堂の改修、新築がなされ、昭和56年(1981年)に大鳥居

整備されています。キャンプ場は予約の必要がなく、区内全て無料で利用が可能となっています。バンガローとオートキャンプ場は予約を必要とし、各キャンプサイトで料金が異なります。「てぶらでキャンプ」というキャンプ用具一式の貸し出しを行うサービスもあります



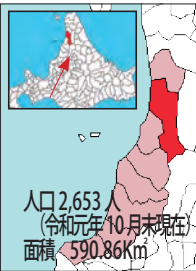
また、海の中に建つ鳥居に重なる夕日は、絶好のシャッターポイントとなっています。

○初山別村イメージキャラクター「しよまろ」

平成28年(2016年)に誕生したイメージキャラクターです。しよさんべつ天文台をモチーフにした帽子や村の特産品であるハスカップ、真フグの首飾りやポシェットを身につけている妖精です。村内のイベントや留萌管内のイベントなどに出没することがあります。

遠別町とは

概要



北海道の厳しい自然の中でいくつもの困難を乗り越え、先人たちはこの地を開拓しました。昭和24年(1949年)には町制が施行し遠別町となり、平成9年(1997年)には開基100年を迎えました。

産業

北海道北部に位置する遠別町は稲作の日本北限地帯として古くから水稻栽培が行なわれてきました。昭和57年(1982年)にそれまで栽培してきたうるち米からもち米へと転換を図り、現在ではすべてがもち米となっています。遠別町の冷涼な気候は稲の病害や害虫の発生を抑え、低農薬、減農薬による稲作を可能にし、品質の良さとおいしさが高く評価されています。そして、日本最北の米どころとしてもち米「はくちよ

特産品



「北吹雪」日本最北の米どころで収穫した「はくちようもち」を原料とし、純米酒をつくりました。とても口当たりがよくすすきりとしていて飲みやすく仕上がっています。冷酒にして飲むのがオススメです。



遠別町B級グルメである「はくちようもち」の生産を发展させてきました。遠別町の漁業は、ホタテ養殖を始めとして、底建網漁業、タコ箱漁業、ホッキ桁網漁業などが支えています。特にホタテ稚貝の養殖では遠別漁港の水揚げ量の約7割を占め、日本海の荒波にもまれて育った稚貝は、安定的な生産で高く評価され、道内のホタテ産地へと出荷されています。



遠別町B級グルメである「はくちようもち」の生産を发展させてきました。遠別町の漁業は、ホタテ養殖を始めとして、底建網漁業、タコ箱漁業、ホッキ桁網漁業などが支えています。特にホタテ稚貝の養殖では遠別漁港の水揚げ量の約7割を占め、日本海の荒波にもまれて育った稚貝は、安定的な生産で高く評価され、道内のホタテ産地へと出荷されています。

「富士見ヶ丘公園開き山菜まつり」春の一大イベントが「富士見ヶ丘公園開き山菜まつり」です。遠別町で採れた山菜を無

料販以外の催しもあり、イベントの最後には餅まきが行われ、盛りだくさんのイベントとなっています。

町の取組み

○「遠別町ちよっと暮らし生活体験」

遠別町では、道北の小さなこの町にしかない魅力を発信し、人を呼び込む取組みとして、気軽に町の暮らしを知ってもらえる移住体験に力を入れています。体験者は「移住交流支援センター」に「ふるさと会」1000円で宿泊しながら、遠別の魅力や北海道の素晴らしい実感できる体験プログラムに参加したり、地元の人々と交流しながら思い思いに過ごすことができます。

○「ふるさと納税(寄附)」

みなさまから寄せられたふるさと納税の使い道として、小中学校の教育向上のため、ドリルや問題集などの教材購入の補助を行い、学習環境を整える取組みを進めています。

○「ふるさと納税(寄附)」

また、遠別農業高校ではドローンを活用した農業の研究や、ボランティア活動や学習事業等への社会参加を通じ、地域ポイントの付与を行い、地域活性化への取組みも進めています。寄付者への御礼として、遠別町の特産品を発送させていただいております。町のお菓子屋さん手作りの柔らかいお餅とあんこを包んだ「たわら最中」や遠別で育ったミニトマト「アイコ」を使用したとても濃厚なトマトジュース、肉厚で歯ごたえのあるジュース、煮タコなど多くの特産品がございます。担当課・遠別町役場経済課商工観光係

高校、遠別農業高校の羊とふれあうことができる「羊ふれあい体験」や、遠別川をカヤックで川下りすることができる「カヤック体験」、遠別産の食材を使った「えんべつ旬グルメ体験」や「そば打ち体験」、「パン・ピザ作り体験」があります。ほかに「えんべつ産業見学ツアー」や「フォトトリップ/野生観察ツアー」、「パークゴルフ体験」、「ファームチャレンジ」などがあり、遠別町での暮らし、遊び、自然、食を実感することができます。体験中は、地域おこし協力隊や移住コーディネーターが付き添い、楽しく過ごせるようにナビゲートします。

利用される方は道外からが多く、関東や関西から訪れる家族にはとても好評です。遠別町の思い出づくり

shoko@town.embetsu.hokkaido.jp

「いきいきと里住夢（リズム）あふれるまちえんべつ」

観光スポット

○「金浦原生花園」

金浦原生花園は、国道232号、通称オロロンライン沿いを市街地より南に8kmほどの場所に見えてきます。6月初めになるとエゾカンゾウが咲き広がり、初夏の訪れを感じさせてくれます。天気の良い日には、太陽の光を浴びた色鮮やかなエゾカンゾウと堂々とそびえ立つ利尻富士を同時に眺めることができ、見た人を興奮させてしまう底知れぬ絶景へと変化します。

○「みなくるびうち」

遠別町の夏に欠かせないのが海水浴場「みなくるびうち」です。約1か月の間オープンされるみなくるびうちは夏の暑い期間、町内外から多くの方々が訪れ、海水浴やバーベキューを楽しむながら賑わいを見せます。シーズン初めにはたくさんの方々が集い「みなくるびうちオープン記念 ビーチバレーボール

大会」が開催され、ビーチ大会」が開催され、ビーチ



○「富士見ヶ丘公園」
富士見ヶ丘公園は道の駅「えんべつ富士見」の裏手に広がる緑豊かな公園です。遠別町の四季を感じさせてくれ、春には満開の桜で私たちを迎えてくれます。公園内は綺麗な芝生で覆われており、緑あふれるさわやかな森の中で様々なアウトドアを楽しむことができます。



町の自然を十分に感じ、自然と一体となりながら、富士見ヶ丘公園をお楽しみいただけます。

○「旭温泉」

旭温泉は、遠別町中心部から車で約10分、国道232号沿いにある大きな看板を目印に東へ約6km進んだ先にあります。周りを山と木々に囲まれた静かな森の中にひっそりと佇む木造の外観はどこか懐かしさを感じさせ、体を芯まで温めるオレンジ色の「旭の湯」と、美肌効果のある黒褐色の「富士見の湯」の二つの源泉がある温泉宿です。泉質には定評があり、地元住人ももちろん、はるばる遠泊できます。



大会」が開催され、ビーチ



キャンプ場としても人気のスポットで、バーベキューハウスやケビンも備えており、気軽に訪れることができます。バーベキューハウスは無料で使用でき、電気も完備されており、夜間でも安心して使用することができます。また、パークゴルフ場や遊具、吊り橋、散策路もあり、幅広い世代で楽しめ、多くの家族連れ等に利用されています。

を盛り上げるイベントとなっています。

ビーチの中央に建つセンターハウスは、イスやテーブル、ブランコなどが設置してあり、日陰で涼しい風をうけ、波の音を聞き、リラックスできる空間でもあります。

○ゆるキャラ紹介「モモちゃん」

モモちゃんは遠別町の森に生息するエゾモモンガの仲間です。1992年（平成2年）に誕生しました。普段は深い森のどこかで暮らしているようですが、その素性を知る人は町内でもわずかしおらず、多くは謎に包まれています。しかし、元気な子どもたちが大好きなようで、遠別町の行事やイベントが開催されると子どもたちと遊んだり、お手伝いに来てくれます。また、遠別町内に限らず、全国各地のイベントにも登場し、遠別町のPRを一生懸命頑張っています。町内での人気はもろろん、町外の子どもたちにも大人気で、モモちゃんの周りは常に人だかりです。町内ではハンドタオルやTシャツ、ストラップなどのグッズを販売しており、モモちゃんのかわいらしいルックスのアイテムがとて好評です。

森から飛び出てきて町の上空を飛び回り、町内の様子を見守っているのではないかと噂もあります。これからも遠別町を愛し、町民の元気を願って活動し続けます。



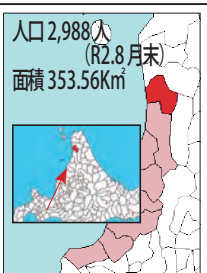
天塩町とは

○農業

日本最北の大河・天塩川は、その雄大な流域に肥沃な土地を形作ってきました。本町の農業も母なる川・天塩川のもたらしたその大地の上で取り組まれていきます。

中心となるのは專業化された大規模な酪農です。

明治末から大正にかけて始められた畜産・酪農は、昭和32年の産業振興5カ年計画、35年の酪農振興計画などを契機として、町の発展を担う基幹産業の一つとして歩み続けてきました。



経営の大型化や近代化、大規模草地改良事業などを柱とした取り組みの中で、町内で飼育されている牛は約1万5千頭を数え、年間約3万トンの牛乳を生産しています。

こうして天塩町は道北圏の專業酪農地域として「北海道の酪農王国」と称されるようになりました。

○林業

大切な森林をよりよい形で未来へ引き継いでいくため、新植林、下刈り、作業路整備、広葉樹改良、除間伐などの事業を継続しています。森林生態系の健全性と活力を維持することも、環境林としての機能を充実させることも重要です。

町内の小学校では、樹木の

の生命の音を確認するなど、の体験学習を重ねながら、森林についての理解と関心を深める森林教室が開かれています。

○漁業と商工業

江戸期のテシホ場所の時代から、本町の漁業は豊かな漁場に営まれてきました。その中心はなんと、サケ漁でもニシン漁、サケ漁で、初期の発展に大きな役割を果たしてきました。

しかし、ニシン漁の後退とともに「獲る漁業」から、沿岸・内水面を拠点とした「育てる漁業」への転換が課題となり、天塩町でも着実に育てる漁業への移行が図られてきています。

漁業造成や計画的な施設整備などの取り組みが進められたことにより、天塩川

本流・支流やパンケ沼など、どでシジミ漁が盛んになり「天塩名産」として全国有数の知名度を誇っています。

天塩のシジミは、蝦夷の三絶といわれたほど美味であり、味と粒の大きさでは日本一を自負しています。秋には定置網によるサケ漁があり、脂の乗ったおいしいサケは新巻として各地に出荷されます。

■特産品

完全自然繁殖による天塩のしじみは、古くから「蝦夷の三絶」と言われた上品な風味と濃いダシの味を楽しめる最高級品です。近年は資源保護のため、年間の漁獲量を厳しく制限し限られ、日本でも唯一の環境で育ったしじみになっています。特に良質なものは「青しじみ」と呼ばれ、味もさらに上品で濃く、天塩産しじみの中でも最高級品となっています。



町の取り組み

○道内のシェアリングシティに認定

少子高齢化で自治体の限られた財源の中、公共サービスのクオリティを維持するため、公助から共助の仕組みでシェアリングエコノミーを活用して地域課題解決に取り組んでいます。「移動のシェア」、クラウドソーシングによる「労働力のシェア」、電子図書館による「知識のシェア」など、情報通信技術により古来からある助け合いの精神を根付かせ、町民同士が支え合うまちづくりに努めています。

○電子図書館サービス

いつでもどこでも借りることができる電子図書館を貸し出す電子図書館サービスを導入しています。

○ICT部活動支援

部活動では、プロアスリートからオンラインで指導を受ける「スマートコーチ」を導入し、技術力の向上とスポーツを楽しむ心を育てています。

系・社会学)と連携し、大学生・大学院生が来町滞在し、地域の中高校生とデータ分析や論理思考、プレゼン技法を学びながら地域課題の解決や活性化をテーマについて考えるグループワークを行う等による地域の人材育成のための取り組みを行っています。

○プログラミング教育

ソフトバンクグループと協働で令和2年(2020年)から始まるプログラミングの授業を平成29年(2017年)から導入しています。

○ふるさと納税(寄附)

べこちちファクトリーの「チーズセット」の牛乳のおいしさ、そして素晴らしさを知ってもらいたいという想いから手作りを徹底的にこだわった絶品のチーズセットです。

◆宇野牧場の「トロケッテ・ウーノ」

昔から酪農家の家で作られてきた牛乳豆腐をヒントに、チーズでもヨーグルトでもない、ミルクの深い味わいとほのかな甘みの新しいスイーツです。



◆天塩しじみラーメン

天塩町のしじみ貝(殻つき)が直接入った珍しいインスタント乾麺。しじみの味が濃く、エキスがいっぱい出ます。あっさりした塩味の中にしじみの香りがたちこめるハイクオリティなインスタント乾麺です。

「牛が人の5倍住むまち天塩町」

観光スポッポット

○天塩川河川公園

天塩町は北海道第2位の長流天塩川の河口に位置する町です。

その河口河川敷に作られた天塩河川公園では、約3km。

青々とした芝生と雄大な天塩川、対岸の砂洲から、冬期は歩くスキーコースとして整備され、多くの町民の方々の健康維持に活用されています。



○道の駅てしお

町を訪れる方々の休憩スポットとして「道の駅てしお」が、お勧めです。

天塩町の道の駅は、北海道でも数少ない市街中心地に位置し、観光客のみならず住民の方にも利用されています。レストランや売店

に最適です。

お部屋、温泉、レストラン、工夫を凝らした意匠の設計により、それぞれの角度・時間で異なる絶景を望むことができ、飽きることがありません。特に、名前



の由来となった夕日については、写真家の間でも有名な撮影ロケーションとなり、息を呑む光景は一見の価値があります。

温泉は、美肌・温浴効果の高い優れた天然泉質により短時間でも良質なりラックス効果を期待できます。

河「天塩川」が日本海へ流れる河口に位置し、その河口に隣接するように天塩町のアウトドアスポット「鏡沼」のアウトドアスポット「鏡沼」が、夏には秀峰利尻富士が浮かび、春から夏にかけてスズラン、エゾカンゾウ、ハマナスなど数種類の原生植物が公園に咲き誇ります。

公園内にはキャンプ場やカーサイト、バンガロー、ライダーハウスなどがあるほかBQも楽しめます。

また、市街地の西側を流れる天塩川の河川敷は河川公園として町民の方々にも親しまれています。

川、海、そして山と全国でも珍しい景観が望め、澄んだ朝方や夕日が沈む際の利尻富士のシルエットなど、お気に入りの撮影スポットを探してみたいかがでしょう。

・「鏡沼しじみまつり」

7月上旬には、日本海と天塩川で働く人々の守護神として祀られている歴史ある「厳島神社例大祭」が行われ、伝統ある越中獅子舞や稚児舞、子ども神輿の渡御で昔ながらの町の風情を感じさせます。

・「てしお味覚まつり」

9月には、秋の味覚を堪能する「てしお味覚まつり」が開催され、地元で採れた旬の秋の味覚や脂がのった有名な「天塩鮭のつかみどり」が人気で、老若男女がつかみどりに奮闘する姿で会場が盛り上がりします。

広がる日本海を望むことができます。

夕暮れ時には、利尻富士と日本海に沈む夕日が絶景となっています。

○てしおもれびの森

天塩の自然を気軽に感じられるのが「てしおもれびの森」です。

防風保安林を活用した



33畝という広大な敷地は、鳥がさえずり緑が香る癒しと安らぎの空間になっ

○てしお温泉夕映(ゆうばえ)

「ご宿泊やイベント・アウトドアで楽しんだ後の疲れを癒す際には、てしお温泉夕映がお勧めです。

夕映イチョシの魅力は、天塩町が誇る最高の展望です。鏡沼、天塩川、日本海、利尻富士山、広大で美しい絶景、それらを一挙に楽しむことができる贅沢な展望は、日常を忘れさせ、日頃なかなか出来ない心のケア



レストランでは、天塩町産「しじみ」をふんだんに使ったしじみラーメンを始めとした地元の美味を楽しむことが出来ます。

隣接する鏡沼海浜公園では夏期の一大イベント「しじみまつり」などのイベントの開催会場となっているほか、道の駅や町中心街へのアクセスも良好です。

■アウトドアスポット

天塩町は、日本最北の大

また、天塩川中流から力強い新川が流れる方角のゴルフ地としてカーポートも置かれています。

■イベント

天塩町では、夏場を中心に様々なイベントを催し、

○町のキャラクター紹介 「てしお仮面」

蝦夷の三絶(北海道の三大珍味)といわれた特産品「しじみ貝」をモチーフにした町のヒーロー！頭部には天塩町の頭文字である天の字をあしらっています。「天塩町のしじみは天下第一品」という意味をこめて人差し指を突き出したナンバーワンポーズが決めるポーズ！?

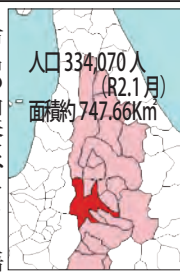


旭川市

旭川市とは

概要

旭川市は、古くからのアイヌの人々の営みと開拓の歴史によって、今日の旭川の基礎が築かれました。以来、交通の要所・物流の集積地として発展し、現在は、北海道の拠点都市として、医療福祉施設、教育施設、文化施設、公的機関などの都市機能が充実しています。



市名の由来は、アイヌ語の「チュプ・ツペ」＝太陽の川から意識されたなど諸説あります。

また、産業では、我が国の食料供給に重要な役割を

担う稲作などの農業や、食糧品、紙パルプなどの製造業、旭川家具をはじめとした木工、機械金属などのものづくり産業が集積しているほか、北海道の交通・物流の拠点として、卸・小売業、サービス業などが発展しています。

近年は、航空路線の充実により、外国人観光客が増加しており、全国的に知られる旭山動物園や雪質が良いスキー場などに、国内外から多くの観光客が訪れています。

○イベント情報

【夏まつり】

旭川夏まつりは、例年7月下旬から8月上旬の3日間に渡って開催されます。納涼花火大会、舞踊パレード、デイスコナイトなど多彩な企画が催されて、みんな



【北の恵み 食べマルシエ】

「北の恵み 食べマルシエ」は、明治23年(1890年)に旭川・神居・永山の3村が置かれてから120年目を迎えた平成22年(2010年)に、これを

なが北国の短い夏を思い切り楽しみます。会場は開会式が行われるリベライン旭川パーク、平和通買物公園、さんろく街、昭和通など多岐に広がっています。道北最大の繁華街であるさんろく街を中心とする大雪さんろくまつりも同時に開催されるため、期間中は大変な賑わいを見せます。

記念するために行われたのが始まりです。開催地である旭川市をはじめ、北海道地域の各自治体や旭川市の交流都市などからの地域自慢の「食」が、JR旭川駅から市民のいこいの場である「常磐公園」、そしてその間をつなぐ日本初の恒久的歩行者天国である「平和通買物公園」と「7条緑道」で一堂に会します。

地域の食が持ついるさまざまな魅力の再発見や、新しい食との出会い、そして生産者の方々へ想いを馳せていただくきっかけの場とするともに、多彩で豊かな食の供給基地である北海道の特色を全国に向けて広く発信していきます。

【冬まつり】

雪が多い旭川は、道路から除雪した後の雪の処理が問題でした。昭和21



年(1946年)に、対策に困った警察署長と観光協会会長が、彫刻家の加藤顕清氏の助言を得て道路排雪を雪像作りに利用したのが「旭川冬まつり」のルーツだと言われています。「雪・氷・あかり」をテーマに、旭川冬まつりは2月の下旬から中旬に開催されます。旭川の深雪と極寒を積極的に楽しめるイベントです。

今回の第62回については、平和通買物公園をメイン会場とした、ウォークスルー型のイベントとなります。

市の取り組み

旭川市は「世界にきらめく いきいき旭川」笑顔と自然あふれる 北の拠点「」を目指す都市像の実現に向けて、①こども 生き生き みらいづくり、②しごと 生き生き 賑わいづくり、③地域 いきいき 温もりづくりの3つの重点テーマを設定してまちづくりを推進しています。

①こども 生き生き みらいづくり

若い世代が安心して子どもを生み育てる環境を創出するために、待機児童の解消や医療費助成などのほか、結婚、妊娠、出産、子育てなどへの切れ目のない支援を行っています。

また、子どもが地域で生き生きと育ち、夢と希望を

持つて学ぶことができる環境づくりや一人一人の個性や能力を伸ばすことのできる質の高い教育を進め、まちの未来を担う人づくりを推進しています。

②しごと 生き生き 賑わいづくり

まちの賑わいを創出するため、ものづくり、食と農、医療・福祉の集積、大規模自然災害が少ないといった様々な地域の資源や特性を生かした地場産業の振興をはじめ、ブランド力の向上、新たな産業の創出や企業誘致の推進、スポーツの振興など地域経済の活性化を図ります。

さらに、旭川市をはじめとして北海道の豊かな魅力や国内外へ発信しながら、その魅力を活用した新たな観光資源の発掘や移

住・定住に向けた受入環境の充実を図るとともに、旭川空港をはじめ交通や都市機能の集積といった圏域における本市の拠点性を発揮しながら、多様な交流を促進し、多くの人々を惹き付け、賑わいのあるまちづくりを推進しています。

③地域 いきいき 温もりづくり

人と人とのつながりを強化するため、世代を超えた地域の支え合いを支援するなど、市民や地域主体の活動を活性化するための取組を行っています。

また、地域の多様な魅力を生かした個性豊かな地域づくりや様々な課題解決に向けた相談支援のほか、人や情報が集まる活動拠点の機能充実などを進めることで、地域を愛する心の醸成

やコミュニティの強化を図る地域づくりを推進して、誰もがいきいきと暮らしています。

○ふるさと納税

『ふるさと納税で旭川市のまちづくり』旭川市では、いただいた寄附金を、旭山動物園の施設整備、経済的に困難がある子どもたちの奨学金給付、日本初の歩行者天国である買物公園の賑わいづくり、世界有数のデザイン都市として次世代を担う子どもへのデザイン教育などに活用させていただいています。

『返礼品はまちの宣伝マン』寄附いただいた方には、旭川市で生産された農作物、職人の技術が光る旭川家具、全国の寄附者に大好評のジンギスカンなどを返礼品として送付し、旭川のPRを行っています。「もうひとつのふるさと」として旭川市の魅力を感じていただき、まちづくりを応援していただだけませんか。詳細は、「ふるさとチョイス」の旭川市で検索してください。

【担当課・税務部税制課】



「あ、雪の匂い」あさひかわ

観光スポット

○旭山動物園

日本で最北にある動物園が旭山動物園です。水中を自在に飛び回るペンギンや、人をめがけてダイブするホッキョクグマなど、ユニークな展示方法が話題を呼んでいます。



100 km圏域からの来客がほとんどという動物園の常識がありますが、旭山動物園には九州や沖縄

態に近づけるのです。ここでも、本来の野生を引き出された動物を私達は見ています。

また、夏の時期には夜の動物園として営業時間を延長し、夜の動物を見る事ができ、普段は見ることができない夜行性の動物達の活発な動きを見ることが出来ます。さらに、旭川冬まつり期間中も雪あかりの動物園として夜も営業し、動物たちの息づかいや気配を雪の静けさの中で感じ取ることができ、寒い夜ならではのイベントで、園内の雰囲気演出するたくさんのお出迎えがあります。

ン作りに適した環境の中で旭川ラーメンは誕生しました。

旭川ラーメンの特徴は、畜産物と海産物という2種類の素材から作られるダブルスープで、寒さが厳しい旭川は、スープの表面にラードを浮かべて身体を温めると同時に、ラードはスープの温度を保つ蓋の役割を果たしています。麺は加水率が低いちぢれ麺が特徴です。麺の水分が少ないため、スープをよく吸い、ねじれた麺はスープとの絡みがよく、スープと麺の一体感が生まれます。

ラーメン村には、そんな旭川ラーメンを提供する味自慢のラーメン店が8店舗入居しており、様々な味を提供しています。また、ラーメン村内には売店があり、お土産用の旭川ラーメンなどを販売しています。平成



タリウムは、ドームの直径が18m、客席が170席で、カール・ツァイス社製の投影機は、惑星の動きを再現し、過去や未来の星空を映し出すこともできます。最後に、天文台は、口径65cmの反射望遠鏡と口径20cmの屈折望遠鏡を設置し、主に太陽や月、惑星などの観測を行います。



男山の歴史は、伊丹で酒造りを始めた、木綿屋・山本三右衛門が男山八幡宮に参拝して靈感を受け、男山の銘柄を用いたときに遡ります。そして昭和47年(1972年)に木綿屋31代当主から木綿屋の称号を譲り受け、社名を男山株式会社に変更したものです。

○男山酒造り資料館

銘酒ができるのに必要な条件は、清浄な水、風味ある原料米、それらを醸造する気温だといわれます。大

など全国各地から動物園自体を目的地として人が集まってきました。

いまや旭山動物園の代名詞となったのが行動展示です。旭山方式とも呼ばれ、動物の姿形よりも、生き活きとした動物の行動を見せようというものです。そのために、動物の特殊な行動や能力を、最大限に引き出せるように施設が工夫されています。そこでは、どこにもいる普通の動物の魅力が再発見できます。

年間の約半分が雪に閉ざされる旭川。その客足が鈍る冬に人気を集めているのが、ペンギンの散歩です。散歩しているのは、野生でも餌を取りに集団で歩いて移動するキングペンギンです。キングペンギンは雪の上を歩くことで、より自然な状

○あさひかわラーメン村
北海道の中央部に位置している旭川は、昔から道内



の物流の拠点となつています。内陸部でありながらもスープ作りに使用される海産物が豊富に集まり、畜産は美瑛や富良野など近郊の調達が可能です。これらの食材と大雪山連峰の山麓を源とする名水が使用されて、抜群のスープが完成します。また、北海道は小麦の産地であるため、旭川は古くから製粉業が発達していました。こうい、ラーメン

18年(2006年)にはラーメン村の中にラーメン村神社が誕生し、スープのように熱い絆が麺のように長く続くことと、食文化の更なる発展を祈念する神社になっていきます。

○旭川市科学館

旭川市科学館は「サイバクル」の愛称で市民や観光客に親しまれています。素朴な疑問を大切にすること、それが旭川市科学館のコンセプト「不思議から始まる科学との出会い」です。

施設には、大きく分けて4つの展示室があります。常設展示室は、北国・地球・宇宙の3コーナーに分かれ、楽しみながら科学を学び体験することが出来ます。特別展示室は、期間限定で恐竜や昆虫など様々なテーマの科学に関する展示を開催しています。プラネ

雪山連峰の万年雪を源にするミネラル豊富な伏流水、加えて適度な乾湿の気候を持つ旭川は、酒造りに極めて適した地域だといえます。旭川は北の灘とも呼ばれ、酒造業は旭川の有力な地場産業になっています。

器などが展示・公開されています。また、各種銘柄の日本酒を無料試飲できるほか、大雪山系の万年雪を源とする伏流水は延命長寿の水として地元旭川市民に愛飲されています。

○市のキャラクター紹介「あさつぴー・ゆつきりん」

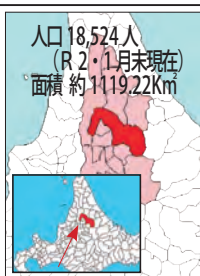


旭川市には、シンボルキャラクターである、「あさつぴー」と「ゆつきりん」がいます。あさつぴーは、もともとゴマフアザラシの男の子で、ある日のこと、あこがれの存在だったホッキョクグマの姿に変身し、「あさひかわのハッピーを願うヒーロー「あさつぴー」として誕生しました。ゆつきりんは、あさつぴーの幼なじみのキリンの女の子。ある日のこと、大好きな旭川の雪と融合した姿に変身しました。普段は気が強いけれど本当は優しい女の子です。旭川では、あさつぴーとゆつきりんが、市民の皆様にも温かく迎えてくれます。

士別市とは

概要

士別市は、北海道北部の中央に位置し、道立自然公園「天塩岳」をはじめとする山々に囲まれ、北海道第2の大河「天塩川」源流域にある水と緑豊かな田園都市です。



士別市には、JR宗谷本線や北海道縦貫自動車道をはじめ、国道や主要道路が接続しているなど、周辺都市とのネットワークは良好な条件にあり、北海道の中心都市である札幌市までは、車で約2時間半、JRでは約2時間でアクセスでき

きます。

その市域は東西に58km、南北に42kmに広がり、行政面積は1119.22km²有していますが、その約74%を山林が占めています。

気候は、上川北部の盆地にあるため、四季の変化がはっきりとした内陸性気候で、5月から9月上旬までは比較的高温多照に恵まれますが、気温の日較差、年



較差ともに大きいことが特徴です。

また、11月中旬から降り始め、まちを約半年にわたって白く覆う雪は、平地でも1m、山間部では2mを超えるなど、積雪寒冷な豪雪地帯でもあります。

なお、平成29(2017)年の最高気温は32.0℃、最低気温はマイナス26.4℃で、年間平均気温は6.1℃となっており、年間日照時間は1534時間、降水量は999mmとなっています。

沿革

士別市開拓の歴史は、天塩川流域の豊富な水と肥沃な大地や緑の山々など、豊かな自然に恵まれるなかで、屯田兵の入植や御料地の貸下げなどを背景に、先人たちの開拓精神とたゆま

ぬ努力のもとで、農林業を基幹産業として発展してきました。

明治32(1899)年に、最北で最後の屯田兵の入植によって開拓の鍬がおろされた旧「士別市」は、昭和29(1954)年に当時の士別町・上士別村・多寄村・温根別村の1町3村が合併し、道内20番目の市として誕生しました。



市の取り組み

めざす都市像に「天塩の流れとともに人と大地が躍動するすこやかなまち」を掲げ、「地域力で進めるまちづくり」を基本理念に、まちづくりを進めています。

士別市では、「農業」を基幹産業に、地域の特性や資源を生かし、「サフォーク」「合宿」「自動車等試験研究」「生涯学習」そして、「水とみどり」をテーマに、様々な取り組みが進められてきました。

これらは、広く内外に「まちのイメージ」として定着し、わがまちの財産として成長しています。

① 未来型農業実践のまち
水稲を中心に、畑作・野菜・酪農・畜産など多種多様な農業経営は、まさに

「北海道農業の縮図」といえます。次代へ継承するため、道内一の大型ほ場の整備をや先進的なICT農業の実践や酪農におけるTMRセンターの導入など、「農業未来都市」の創造に向けた取り組みを展開しています。

② サフォークランド士別
羊を顔としたまちづくりは、まちの活性化やイメージづくりに大きく貢献しています。地場産業としての展開や生産体制の拡充をはじめ、食と観光の連携など、サフォークランドとしての総合的な取り組みを進めています。

③ 合宿の里
スポーツ選手の受け入れ態勢の整備をはじめ、合宿者へのサポートや市民交流なども行いながら、「合宿の聖地」の創造をめざした

④ 自動車等試験研究のまち
冬季を中心に自動車関連の試験研究が数多く行われています。試験研究の円滑な実施のための支援や来訪者の受け入れ態勢の充実に向けて、相互の連携を図るなど、試験研究のまちとしての取り組みを進めています。

⑤ 生涯学習のまち
多くの市民が、各種の講演会や研修会はもとより、文化・芸術・スポーツなど様々な分野での活動を通じて、自らを高め、自身の人生を心豊かで健やかに過ごすことに取り組んでいます。

⑥ 水とみどりの里
道立自然公園に指定されている天塩岳をはじめ、地域の約74%を占める森林な

⑦ ふるさと納税(寄附)
私たちのまち「士別市」は、屯田兵の入植以来、そのフロンティア「スピリット」を受け継ぎながら、農林業を基幹産業として発展してきました。安全・安心な生活環境づくりに努めるとともに、「羊のまち」「合宿のまち」「自動車等試験研究のまち」として、個性あふれるまちづくりを進めています。

今後、「天塩岳」や「天塩川」をはじめとした豊かな自然のもと、「人と大地が躍動するすこやかなまち」をめざして、まちづくりを進めてまいります。

士別市にゆかりのある方々、ご関心のあるみなさま、ぜひ「士別市」を応援してください。

(寄附金を活用しているプロジェクト)

- ① こだわりの交流プロジェクト：友好都市や姉妹都市との交流に活用させていただきます。
- ② いきいき健康プロジェクト：検診センターなどの医療機器更新のほか、市民の健康増進事業に活用させていただきます。
- ③ すくすく子育てプロジェクト：保育園で使用する遊具や絵本の購入など、子育て事業に活用させていただきます。
- ④ さわやか環境プロジェクト：ごみの減量化に向けた取り組みのほか、環境センターの運営に活用させていただきます。
- ⑤ はつらつ産業プロジェクト：基幹産業の農業の振興のために活用させていただきます。

「羊のまち士別市」

観光スポッポット



現在は市内で約1300頭の羊が飼育されています。「羊と雲の丘」には、30種の羊を飼育する「世界のみん羊館」や「レスト



植物が自生しており、ナキウサギの生息地としても知られています。また、山麓部はクマゲラをはじめとするキツツキ類、カラ類などの鳥類や、キタキツネ、ヒグマなども多く生息しており、夏には2000人を超える登山者が訪れます。

○つくも水郷公園

昭和36年、蛇行の多かった天塩川の治水対策として切り替え工事が行なわれ、旧河川用地を造成して完成した都市公園です。都市公園としては、北海道北部の中で一番大きな公園であり、市民をはじめ市外からも多くの人々が訪れ、レクリエーションの場として親しまれています。

・施設

ポート、ゴーカート、キヤンプ場、野球場、フイー

○合宿の里

夏の冷涼でさわやかな気候や冬の雪と寒さなどの豊かな自然環境のもと、これまで多くの人々がスポーツや文化活動で合宿に訪れています。



入れ実績があります。各施設へコンパクトな移動
各宿泊施設から主要な競技施設・トレーニング場へ



は徒歩で15分程度。旭川空港までのバス送迎や、自転車、超小型電気自動車の貸し出しも無料です。移動負担がなく、トレーニングに集中できる環境を実現しています。

・主な施設

- ①陸上競技場

のがきつかけです。その後、昭和57年に市民団体の「サフォーク研究会」が立ち上がり、官民一体となったまちづくり運動として展開され、現在でもまちの個性の一つとして取り組みが継続されており、

ラン羊飼いの家」があり、シーブドックショーや羊の毛刈りなどの体験ができます。

○天塩岳

天塩岳(標高1557.6m)は、北海道北部に位置する北見山地の最高峰です。昭和53年1月6日に主峰天塩岳を中心とする面積9369畝が、「天塩岳道立自然公園」として北海道の指定を受けました。



山後部はキバナシヤクナゲなど数多くの高山



ルドアスレチック、パークゴルフ場(18ホール)などがあるほか、D51形蒸気機関車を展示しています。

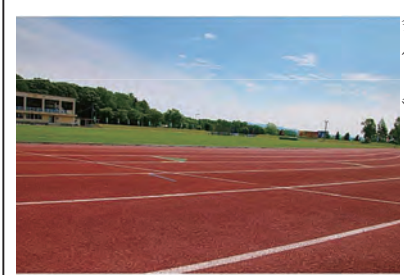
また、士別市サイクリングターミナルといった宿泊施設もあり、冬季はスケートリンクやカーリング場を運営しています。周辺には、河川敷地を活用してサッカー場、ソフトボール場などを整備しています。



るまちを目指しています。「競技者目線」での環境づくり
信号が少ない市内の道路には距離表示板を設置するほか、入林許可のいる未舗装林道やゴルフ場を開放するなど競技者のニーズに配慮しています。

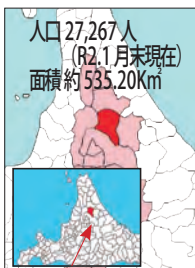
・主な競技大会

- ① サフォークランド士別ハーフマラソン大会(7月下旬)
- ② ホクレンデイズスタンスチャレンジ士別大会(7月上旬)
- ③ 全日本サマージャンプ3大会(7月)



名寄市とは

概要
名寄市は、北・北海道の中央に位置し、天塩川と名寄川が作り出した名寄盆地にあります。



歴史

平成18年3月27日、旧名寄市と旧風連町との合併により新名寄市が誕生し、双方が築いた歴史や伝統が受け継がれました。

夏と冬の寒暖差が60℃にも及ぶ気候条件を有しています。夏は日本最大級の作付け本数を誇る「ひまわり」が市内各所で咲いており、どこまでも続く黄色い

絨毯のようなひまわり畑は圧巻の景色です。冬はパウダースノー(粉雪)を超え、るシルキースノー(絹のよう)にキメ細かい雪」と呼ばれる雪質の「名寄ピヤシリスキー場」、道立サンピラーパーク内の「カーリンググホール」、そして、雪質日本一フェスティバルなどがあり、年中通して豊かな資源やさまざまな魅力があります。

また、農業を基幹産業とし、日本一の作付面積を誇る「もち米」は、有名な「伊勢の赤福」にも使われており、甘く・太く・やわらかい「アスパラガス」は国内有数の作付面積と収穫量を誇ります。

・イベント情報
○イベント情報
第68回なよろ憲法記念ハーフマラソン

・北の天文字焼き(2月2週土曜日)
「天」という文字を書く天塩川河川敷で行われ、ように270個ものドラム缶を配置。その大きさは、雪上で縦220cm、横150cmにもなり、総画長490cmは日本一にもなりました。2017年には「世界一大きい火文字」としてギネス世界記録の認定を受けています。

市の取り組み

市民と行政との協働によるまちづくり

市民がまちづくりに参加できる機会を広げ、故郷への誇りと愛着が育まれるまちづくりに努めています。また、情報の公開を積極的に進め、市政に関する情報共有を図るとともに、人権尊重、男女共同参画の推進を図ります。

市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり
住み慣れたこの地域で、子ども、高齢者、障がい者などすべての市民が、互いに支え合いながら、自分らしく生きるための「自立と共生」の地域社会づくりを目指します。

豊かな自然環境の保全を図るとともに、快適な居住環境の整備、ごみの適正処理のための体制と施設など、生活環境の整備を進めます。



ふるさと会のご案内

東京部、札幌市、旭川市またはその近郊に住居する名寄出身者、または、名寄にゆかりのある方々により形成され、会員相互の親睦・交流・情報の交換を図り、郷土愛のもとに、名寄市の応援団として活動していただいております。名寄市からは、ふるさと『なよろ』の近況をお伝えする広報誌を年3回お届けしています。(担当部署：経済部 交流推進課)

ふるさと納税

皆様の「名寄市を応援したい」、「貢献したい」という思いをふるさと納税制度による寄附という形でご協力をお願いします。

皆様から頂きましたご寄附は、寄附者の皆様の意思に沿って、「大学に関する事業」、「天文台に関する事業」、「冬季スポーツの拠点化に関する事業」、「農業に関する事業」、「子育てに関する事業」、「医療と福祉に関する事業」、「その他まちづくりに必要な事業」の7つの事業に活用させて頂きます。



「お礼品の紹介」スイートコーン イエローホワイト食べ比べセット 各5本セット
肥沃な大地と昼夜の寒暖差により病害虫の発生が少ないため、減農薬農法で育てた、糖度が高く、皮も身もしっかりしており、味も見た目も抜群の生でも食べられるスイートコーンをそれぞれ食べ比べセットのできるこのセットは贈り物にも最適な一品です！ぜひ一度ご賞味ください!!

担当部署：総務部総務課

「星・雪・きらめき 緑の里 なよろ」

観光スポット

○なよろ市立天文台 き
たすばる

名寄市は国内でもトップクラスの星空の街です。「なよろ市立天文台 きたすばる」は、名寄市中心部から車で15分程度とアクセスが良く、それでいて、人工灯の影響が少ないため、他ではなかなか見ることのできない、天の川をはじめとした暗い天体を見ることができま

す。晴天時には、国内最大級の口径を誇る「1.6m反

射望遠鏡（愛称：ピリカ望遠鏡）」を利用して観望を行っています。ピリカ望遠鏡は、一般公開している望遠鏡としては、日本で2番目の大きさです。

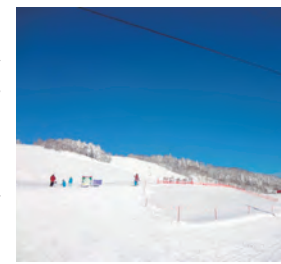


折々の風景も映像で楽しむことができるほか、本州とは異なる動植物の生態なども学ぶことができます。また、各種企画展や自然観察会、体験講座なども充実しており、北国の歴史や自然を学習、体験できる施設となっています。



「お食事 風の寄り道」も人気です。ドライブの休憩や地域観光情報の収集などにも是非お役立て下さい。○ひまわり畑

ひまわりの開花が名寄市の夏の訪れを告げ、「黄色いじゅうたん」が、広大な大地を彩ります。北海道立サンピラーパークをはじめ



市内一円でたくさんひまわり畑を觀賞することができ、多くの観光客でにぎわう夏の絶景スポットです。毎年8月には、北海道立サンピラーパークで、「ひまわりまつり」を開催しています。展望台を臨時設置

然休養林の中にある温泉ホテルです。宿泊やお食事のほか、日帰り入浴も楽しめます。温泉は、ほんのり茶褐色の湯で、さらりとした肌触りです。体の芯からほかほかになり、筋肉痛や神経痛、慢性消化器病も和らげるとされています。

また、こちらのスキー場は、神秘の自然現象「サンピラー現象」の発生率が高い場所としても有名です。「サンピラー」とは、氷点下20℃以下までの冷え込みや、風のない早朝や夕暮れ時など、特別な条件下にお

き、キラキラと発生するダイアモンドダストが、太陽の光を反射した時に、稀に出現する太陽柱のことで、とても幻想的な光景がひろがります。

また、プラネタリウムでは、星空解説のほか、全天周映像の投影も行っており、子どもから大人まで楽しみながら、天体に詳しくなれるプログラムとなっています。

展示では、国内外に落下した隕石も複数展示しており、実際に触ることもできます。

○北国博物館（きたぐにはくぶつかん）



市民を中心に寄贈された10万点にもよる、北国に関する暖房具、防寒具、スキーなど冬の生活道具を展示しています。サンピラーなど幻想的な自然現象や名寄の美しい四季

市にしか現存しない貴重なもの。○道の駅「もち米の里☆なよろ」

国道40号線沿い、名寄市の南の玄関口として、豊かな田園風景にたつむ道の駅です。もち米生産量日本一を誇る名寄市の「もち米」にこだわった特産品をはじめ、地元「安心・安全」な農産物や各種お土産品も豊富に取り揃えています。特にもち米を使ったソフト大福は、冷めても固くなりにくい特長を持っている品種の「はくちようもち」を使用しており、もちもちとした食感と上品な甘さで人気商品となっています。



地元食材を豊富に使った

し、一面のひまわりを背景に記念撮影ができるほか、名寄市立産業高校生徒による、ひまわりパウダーやひまわりオイルを使用したスイーツを提供するカフェの

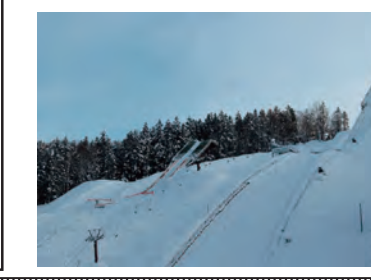
「ひまわり」をテーマにした工作ワークショップ、月明りに照らされたひまわり畑と星空を眺めながら、天文台職員による夏の星座案内など「ひまわり」を満喫できるイベントが盛りだくさんです（イベント内容は、変更になる可能性があります）。

○名寄ピヤシリスキー場・なよろ温泉サンピラー

初級者から上級者まで幅広い層に楽しんでいただけるゲレンデとなっており、4本のペアリフトと9本のバラエティーに富んだコースで構成されています。スキー場自慢の「スロープス



スキーの後には、隣接する「なよろ温泉サンピラー」でリラックスしてください。ピヤシリ自



○名寄市観光キャラクター「なよろ」
2012年、名寄市の知名度向上・観光振興を目的に誕生したマスコットキャラクターです。「なよろ」は、おもちと星が大好きな男の子です。もち米の帽子をかぶり、服は鏡餅です。きたすばる天文台の望遠鏡を小さくして、いつも持ち歩いて、名寄のきれいな星空を、毎日、眺めています。

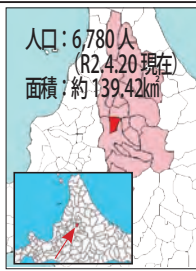


鷹栖町とは

概要

鷹栖町は、トマトジュース「オオカミの桃」で知られ、北海道のほぼ中央、上川管内の中心部に位置し、和寒町、北海道第二の都市旭川市に隣接しています。周りを小高い山に囲まれ、全体的には盆地状をなし、中心部を石狩川に注ぐオサラップ川が北から南へ貫流しています。

中心部から旭川鷹栖インター、旭川北インターまで車で約10分なので、車での道内各所へのアクセスも容易です。



町名の由来

鷹栖町が未開の地だった頃、ハイタカやオオタカなどの大きな鳥が生息し、大空に輪を描いて舞っていたといわれています。その光景を目の当たりにした人らが「大きな鳥(鷹)の棲むところ(巢)」を意味するアイヌ語「チカップニ」と呼ぶようになったといいますが、それが意識され、「鷹栖」となりました。

姉妹都市

平成7年11月18日、鷹栖町と世界的な観光地であるオーストラリアのゴールドコースト市間で姉妹都市関係が提携されました。平成27年には姉妹都市提携20周年を記念して、双方の首長らで結成した訪問団がお互いのまちを敬訪問し、固く結ばれた絆を再確認しました。

イベント情報

・さくらフェスタ

5月中旬に、町民手づくりの憩いの杜「パレットヒルズ」で開催しているさくらフェスタ。鷹栖町の牛肉や鹿肉のバーベキューをはじめ、天然酵母パンなど、鷹栖産の「うまいもん」をたっぷりと味わうことができます。イベントとして、毎年多くの来場者でにぎわいます。その他にも子ども向けイベントとして紙ひこうき飛ばし大会やビンゴ大会などを開催しています。

・健康をさがそう! たかす

「健康をさがそう」を合言葉に、昭和60年から開催しており、盛大な夏のイベントとして定着しています。1.5kmからハーフマラ



ソンまでコースを選ぶことができ、四方を山に囲まれた初夏の美しい田園風景が広がるコースを走ります。また、近年はホンダ陸上競技部の選手や、プロバレーボールチーム「ヴォレアス北海道」の選手にも参加いただいています。

・たかす熱夏フェスタ

8月の第1土曜・日曜に開催している町内最大規模のイベントです。ゲルメ



例年9月に行われ、町のメインストリート沿いを特設会場に、肉料理や軽食、新鮮野菜など、鷹栖の味覚が楽しめる屋台が立ち並びます。また、JAたいせつ富農センター前には特設ステージが設けられ、町内幼稚園児の発表や町内サークルのダンスが来場者を楽しませます。

・たかす歩くスキーフェスティバル

昭和59年から開催しており、毎年多くの歩くスキー愛好者が参加し、自然豊かなコースを楽しんでいます。歩くスキーは、年齢や性別に関係なく、自分の体力に合わせて自然と親しみながら健康づくりができるスポーツとして、幅広く親しまれています。

町の取組み

「笑顔 しあわせ みんなでつくる あったかす」

をまちづくりの基本理念に、次の5つを基本目標にまちづくりに取り組んでいます。

①あらゆる世代が幸せを追求する 人が輝くまち

あらゆる世代の町民が、それぞれのニーズに応じて学びと成長を実現でき、誰もがふるさとへの誇りと愛着を実感できる、人が輝くまちづくりを進めています。

②あらゆる人の希望に寄り添う 幸せな暮らしを実現するまち

妊娠期から出産、子育て、子どもから高齢者まで、ライフステージのあらゆる場

面で希望を叶えて笑顔で過ごせるまちづくりを進めています。

③あらゆる地域資源を活かす 幸せなしごとをつくるまち

豊富な地域資源を改めて磨き上げることで多様性のある力強い産業を構築し、すべての人が豊かな地域資源の恵みを実感できるまちを目指します。

④あらゆる安心を未来へとつなぐ 幸せな環境を持続するまち

鷹栖町の魅力ある環境を守り育て、今この町に暮らす町民と未来のこの町に暮らす町民がともに、安心して生活を営むことができる環境を持続させていくという視点を持って、暮らしを支える基盤づくり、暮らし

を豊かにする環境づくりを進めています。

⑤あらゆる人が関係して高め合う 幸せな交流があるまち

大小さまざまな、あらゆる世代や立場の人が関わりあい、その活動が連なって大きな輪となるように、町内外につながりづくりを進めています。

ふるさと会「さっぽろ鷹栖会」のご紹介

本会は、札幌市及び近郊にお住まいの、鷹栖町出身者及び縁のある方々により平成6年に結成されました。総会・懇親会を毎年9月上旬ごろに札幌市内において実施していますので、担当までお問合せください。(担当:総務企画課)

ふるさと納税

鷹栖町を応援し、「ふるさと」として親しんでくださる方とともに、「あったかす」なまちづくりに取り組んでいます。

皆さんからいただいたご寄附は、「次代を担う子どもたちの活動事業」、「ふるさとの自然や環境を守る活動事業」、「心豊かなふるさとの人々を育む活動事業」、「ふるさとを築いた高齢者の福祉活動事業」、「その他町長が必要と認める事業」の5つの使い道に分け、まちづくりに活用させていただきます。

返礼品の紹介

道内でも有数の米どころ鷹栖町産100%のブランド米「鷹栖町産なつぽし」をはじめとした、町内農家自慢のお米が大人気。ほかにも、鷹栖牛や鹿肉、はちみつ、乾燥大豆、職人技が光る陶器など、魅力あふれる記念品をお礼の気持ちとしてお贈りしています。

・詳細は、ポータルサイト「楽天ふるさと納税」または「ふるさとチョイス」の鷹栖町ページをご覧ください。

「笑顔幸せ みんなでつくる あったかすのまち鷹栖町」

観光スポット

○パレットヒルズ

町民手づくりの憩いの杜「パレットヒルズ」は、鷹栖町の豊かな自然を生かして、町民と行政が一体となって植樹などの整備を進めています。展望台からは大雪山連峰を一望でき、5月には丘が満開の桜で彩られます。桜の時期に開催する「さくらフェスタ」や「夜桜ライトアップ」のほか、自然環境を生かした

遊水施設や四阿などを設け、夏の暑い日にはお子さんが笑顔で遊んでいる姿が見られます。また、バリアフリー化した「キッチンガーデン」には15種類のハーブ類などが植えられており、車椅子利用者なども気軽に立ち寄れるレイズドベッドタイプの花壇が特徴です。誰も草花を手にとり取って香りや触感を楽しむことができ、ヒーリングガーデンの要素のある憩いの空間です。

人ぞ知る隠れたスポットです。レクリエーション デイキャンプやパークゴルフなど軽スポーツを楽しむ区域です。夏には星空観測会などを開催しています。また、コニファガーデンをイメージして整備が進められている手づくりガーデンには、町民の方たちの手によって大小さまざまな品種の苗木が植樹されています。

帯が静まり返る冬の銀世界。訪れたその瞬間にしか触れられない体験が、パレットヒルズにはあります。○メロディー橋 町としての最後の永久の調和した憩いの場として造成が始められました。そのきつかけは、みかえりの柏の下に「見返り地蔵」を建立した際に「開拓の流れ離語らぬ草地蔵」南蝶の句碑を建立したことで、この句碑が好評を博したため、町内外の俳人の句を招待し、句碑の森にする計画が始まりました。その秋には俳誌「樹水」主宰塩野谷秋風師の賛同を得て、秋には5基の碑を建立。翌58年、古民家を移設した集会施設「玄穹庵」が建築され、夏秋に2度、句碑の序幕式

句碑の森には、約180基の句碑が建立されています。昭和57年に、緑と文学

E-mail : kikaku@town.takasu.lg.jp
公式ホームページ : https://www.town.takasu.hokkaido.jp



星空観察や写真教室、音楽イベントなどにも利用されています。近年では、静かなブームのソロキャンプ利用者も増えてきており、恵まれた眺望を楽しみむキャンパーの姿が見られます。

当公園には12のゾーンングを設定し、地形や特性に応じて「利活用推進のための整備」「元の自然を保全」など目的を分けています。ここでは、四季折々の自然を五感で体験できる主要なゾーンングについて紹介します。

・センターゾーン

パレットヒルズに入ると、左手側の駐車場と、管理棟が位置する園内の中心となる区域です。管理棟には水洗トイレと休憩スペースがあり、急な雨天時や、小さなお子さんがいても安心で、ワークショップなどにも活用ができます。管理棟前には

池と小川のある区域で、鯉やヌマエビなどの水生生物が生き生きとしています。多様な種類のトンボや蝶、コクワ、希少なウバユリの群生地などもあり、生物多様性に富んだゾーンで、昆虫採取の子どもたちが元気に遊ぶ姿が見られます。沢に造成された北海道をかたどった小島は知る

別の味です。

・水辺のふれあいゾーン

が行われました。句碑の森には著名俳人の碑も多く、俳誌「若葉」の西本一都、「樹氷」の塩野谷秋風や北見弟花、「雪華」の深谷雄大、「水原帯」の川端麟太、「えぞにう」の木下春影、「古譚」の石田雨圃子のほか、種田山頭火など、数多くの同人俳人の句碑が建碑されています。

・桜の杜ゾーン

○ゆるキャラ「あったかすくん」 平成7年に誕生した「あったかすくん」が、鷹栖町をさらにPRしていくために、平成25年にリニューアルしました。愛くるしい瞳が特徴で、タカをモチーフにしています。(赤いトサカがありますが、ニワトリではないよ！)

○ゆるキャラ「あったかすくん」

胸にはパレットヒルズをイメージした桜の名札、背中には町の特産品であるトマトジュース「オオカミの桃」を背負っています。飛べませんが、跳べます。町内外で行われる鷹栖町をPRするイベントに参加し、皆さんとふれあいます。



お問い合わせ 鷹栖町役場 TEL: 0166-87-2111 FAX: 0166-87-2196
〒071-1292 北海道十勝郡鷹栖町南1条3丁目5番1号

富良野市とは

○市の概要

富良野市は北海道の「へそ」、ほぼ中心に位置しており、市域の7割を山林が占める自然豊かなまちです。基幹産業の一つでもある農業では、北海道屈指の食糧生産基地として、多くの農産物が収穫されます。



また、それらを用いた加工品やグルメもおすすです。もう一つの基幹産業である観光は、スキーをはじめ、雄大な自然を満喫できるアクティビティ、ドラマのロケ地めぐりなど、道内屈指の観光都市として国内外から毎年多くの観光客が訪れます。

訪れます。

・へそのまち ふらの

富良野市は北海道の「へそ」、ほぼ中心に位置していることから、全国各地のへそに位置する10のまちからなる「全国へそのまち協議会」に加盟しています。

・スキーのまち ふらの

富良野スキー場における昭和52年(1977年)開催のFISワールドカップをきっかけに、世界中にスキーのまちとして知られるようになりました。過去10回以上ワールドカップが開催されるほどの上質な雪質を有することから、国内はもちろん、世界中から多くのスキーヤーが訪れます。

・ワインのまち ふらの

富良野市では昭和47年(1972年)にぶどう果樹研究所が設立されたことをきっかけに、ワイン事業

に着手しました。ふらのワインは昭和57年(1982年)にモンド・セレクション第20回ワールドカップで最高位賞の金賞を受賞して以降、日本を代表するワインの一つです。また、富良野産のぶどうを100%で製造されるため、「メイドインフラー」の中心商品の一つとなっています。

※メイドインフラー：豊かな農産物とこだわりの飲食店、観光地ならではの加工品が揃う富良野で、美味しい「MADE IN FURANO」(富良野産)を味わってみたいということで、平成28年(2016年)度よりスタートした取り組みです。

ワインなど、幅広いジャンルの54もの商品が認定されています。(令和2年3月末現在) 詳しくは「メイドインフラー」で検索

「お問い合わせ先 富良野市商工観光課 0167・39・2312」

○特産品

(農産物) たまねぎ、ミニトマト、メロン、スイカ、す。

(加工品、グルメ) ふらのワイン、ふらのチーズ、富良野オムカレ、メイドインフラー商品など

○イベント情報

・北海へそ祭り

富良野市が北海道の「へそ」、地理的中心であること、堪能し、とにちなぶどうの



み、毎年収穫を祝う祭りです。昔な7月28日からのワインの仕込み風景、29日にを再現した「ぶどう踏み」開催され演奏の実演や各種アトラクする祭りでシヨン等も開催されています。北海す。



市の取り組み

富良野市では「市民の暮らしを地域と行政がともに支えるまちづくり」、「富良野の魅力や強みを活かして創造するまちづくり」という2つの基本理念に沿って、将来像として「安心と希望、協働と活力の大地『ふらの』」、まちづくりのテーマに「住み続けたいまち、そして、子どもたちに誇れるまちをめざして」を掲げています。

1. 「次代を担う子どもたちをみんな育てまわす」

安心して子育てができる環境づくり、心豊かでたくましい子どもたちを育て教育の推進、みんな子ども

たちを育て地域づくりなどにより、まちづくりに取り組んでいます。

2. 「やさしさと生きがい」が実感できるまちづくり

豊かな心身を育て社会教育活動の環境づくり、誰もが健康で安心の地域づくり、ともに支えあい生きいきと暮らせる地域づくりに取り組んでいます。

3. 「人と自然が共生する環境にやさしいまちづくり」

安全で安心できる快適な生活環境づくり、自然環境を生かして住みよさを高めるまちづくりなどにより、まちづくりに取り組んでいます。

4. 「地域の魅力ある産業を活かしたまちづくり」

持続可能な農業及び農村づくり、商工業の振興とまちなかに賑わいのあるまちづくり、多様な業種が連携して農村の魅力伝える観光のまちづくりなどに取り組んでいます。

5. 「市民と地域、行政が協働して築くまちづくり」

市民が連携し、みんなで支えあう地域づくり、市民の信頼に支えられた行政運営の推進などにより、まちづくりに取り組んでいます。

○ふるさと納税(寄附)

富良野市は自然や環境を守り、市民に暮らしやすく、訪れる方には「心のふるさと」を感じてもらえるまちづくりを進めています。ふるさと納税を通じて富良野市を応援し、ともにまちづくりを進めていただけるみなさんの「思い」を募っています。

皆さまから頂いた寄附は富良野市の発展のため、「子育て・教育の充実」、「農林業の振興」、「医療・介護・福祉の充実」その他市長が必要と認める事業の4つの事業に活用させていただきます。

お礼の品は「グリーンアスパラ」や「メロン」、「たまねぎ」や「お米」など季節によって様々な農産物、「ふらのワイン」や「ふらのチーズ」をはじめとする《メイドインフラー》(富良野産)《認定商品や加工品など、幅広く用意しています》。



※詳しくは「富良野市 ふるさと納税」で検索
お問い合わせ先 富良野市総務課 0167・39・2300

「へそとスキーとワインのまち 富良野市」

観光スポット

○フラノマルシェ



イベントが開催されるなど、季節感豊かで多彩なミニイベントを通して富良野の「今」を体感できます。インフォメーションコーナーには、周辺の地図・お店の紹介パンフレットなども設置していますので、フラノマルシェを旅の拠点として、富良野市の名所を巡るのもおすすめです。

○富良野スキー場

富良野スキー場が世界に知られるきっかけになったのは、昭和52年（1977年）開催のFISワールドカップです。北海道の中でも上質な雪質が楽しめるスキー場として、国内外の多くのスキーヤーに愛され続けています。冬はもちろん



たり、秋には紅葉を楽しんだりすることもできます。スキー場麓付近には「ピクニックガーデン」があり、ツリートレッキングが楽しめる「ツリーアドベンチャー富良野」や「セグウェイツアー」、「熱気球フライト体験」などの富良野の大自然を満喫することのできる多彩なアクティビティを体験することもできます。

連続放送が始まり、半年にわたり放送されました。放送終了後、ドラマ視聴者の反響の大きさから、スベシャルドラマへと移行し、その後、北海道観光やドラマのロケ地めぐりの代表的な存在となりました。21年間にわたりドラマ化され放送されたことも、日本ドラマ放送史上、多くの方々の記憶に残る作品となっています。



通常、テレビドラマのロケセットは撮影目的での設営のため、簡素な建築物となっており、撮影終了後は撤去されたり、残される場合でも撮影場所からは移設され、一般公開されたりするというのが通例です。しかし、富良野市麓郷地域にある「北の国から」のロケセットは、撮影された場所そのまま保存・管理され、一般公開に至っている国内

実際、撮影に使用されたロケセットのほかに、復元されたロケセットやドラマ終了後に継続したドラマの世界を表現したロケセットなど、7つの建物の展示公開をしています。また、麓郷地域には実在する材木事業所をそのまま撮影に使用した家屋や居酒屋に見立て撮影したお蕎麦屋さんや主人公が通った小学校の建物など、当時の撮影の様子

成22年（2010年）4月に誕生し、この春、10年目を迎えました。

魅力的なスポットですが、夏や秋のスキー場も見どころ満載です。

2000種類以上の富良野ブランド商品を取りそろえる物産センター「アルジャン」、新鮮野菜や加工食品が揃う農産物直売所「オガール」、季節の飲み物が楽しめるカフェ「サポール」などをはじめ、富良野ならではのユニークな18のショップが充実した「食と農のエンターテイメント空間」として、老若男女が楽しく集い、交流する「まちの縁側」を目指しています。

6月中旬から10月中旬（予定）までは、101人乗りの富良野ロープウェイを運行しています。ロープウェイ山頂からは富良野盆地と十勝岳、大雪山連峰の雄大な風景が広がっており、気象条件によっては富良野盆地を覆う「雲海」が見えることもあります。また、山頂からは富良野西岳の登山も気軽に体験でき

また、お食事やショッピングはもちろんのこと、夏は噴水、冬は雪のすべり台やイルミネーションを設置するほか、多目的交流空間「タマリバ」や自遊空間「マルシェギヤラリー」では四季折々に



また、平成20年（2008年）放送のテレビドラマの舞台となった「風のガーデン」では、約450品種以上、約2万株の花々が咲き誇り、自然を感じながら散歩することもでき、原種の力強さやオールドローズの美しさが満喫できる「薔薇の庭」やどこか懐かしい「野の花の散歩道」などの魅力的なエリアが充実しています。

冬のスキーはもちろん、多彩なアクティビティ体験や雄大な自然を満喫することのできる魅力的なエリアなど、夏や秋も楽しめる富良野スキー場へぜひお越しください。

○ドラマ「北の国から」ロケ地

テレビドラマ「北の国から」は昭和56年（1981年）10月からフジテレビで

でも大変珍しいロケ地の一つとなっています。を強く感じられる場所となっています。

○市のキャラクター紹介

・ゆるキャラ「へそ丸くん」
北海へそ祭りの公式キャラクターとして、昭和63年（1988年）の第20回を記念してデザイン、平成15年（2003年）の第35回に公募により命名されました。平成23年（2011年）の第43回には「動くへそ丸くん」が初登場し、富良野市のゆるキャラとしてお披露目されました。
へそ丸くんは1969年8月15日生まれの男性で、「イイジャンイカ」が口癖のいつ何時も笑顔を絶やさない楽天的な性格のキャラクターです。他にも家族や外国人の友達がいるかもしれないの噂があります。



ちなみに、平成28年（2016年）にはLINEスタンプの配信も開始されました。

すぐに行けるまち 東神楽町

観光スポット

○旭川空港

道北の空の玄関口である旭川空港が位置する東神楽町。羽田空港からの所要時間は1時間45分と短く、思い立ったら「すぐに行けるまち」です。2019年5月には屋外で北海道名物のジンギスカンが楽しめる「旭川空港ジンギスカンテラスカムイチカブ」がオープン、そして同年9月には旭川ラーメンや海鮮丼など、こだわりのご当地グルメを堪能できるフードコート「そらいち」がオープンするなど、単なる旅の通過点ではなく、北海道を味わい、楽しめる空港としてさらにパワーアップしました。

○ひがしかぐら森林公園

車で旭川空港から約15分、旭川駅から約30分に位置し、キャンプやパークゴルフ、遊水池の上を走るサイクルモノレールやボート、ゴーカートなど各種アクティビティまで楽しめる、よくばりアウトドアリゾートです。



パークゴルフ場は起伏に富んだ難易度の高いコースから初心者向けまで多彩な

みではいかがでしょうか。一日居ても飽きない、特に親子連れには最適な施設です。

○森のゆホテル花神楽

ひがしかぐら森林公園の隣に位置する天然温泉です。大浴場は自然の素材を生かした石造りで、大きくとられた窓からは展望豊かなロケーションが広がります。展望露天風呂から見渡せる大雪山は一見の価値ありです。その他、爽やかな香り漂うハーバルサウナや、炭酸泉などがあり、ゆっくりにおくつるぎいただけます。お部屋は和室、洋室、和洋室、露天風呂付和洋室があります。中でも露天風呂付きの和洋室は、プライベートな空間で源泉の湯につかり、澄み切った空気とナチュラルな景観が楽しめる贅沢なひと時を過ごすことができます。お食事も、



約15分とアクセスも抜群です。西コース、東コースがあり、全36ホールとなっています。クラブハウス2階から見える大雪山の眺めが素晴らしく、特に春から初夏にかけての残雪、秋の初雪の山々がおすすすめです。また、どのホールからも大雪山や十勝岳連峰を見渡すことができ、キタキツネやエゾユキウサギ、エゾリスが遊びに来ることもあり、コース幅がともて広まます。気持ちよくプレーできます。



工場を構える木製家具専用メーカーの匠芸では、材質・デザイン、利便性すべてにこだわり、無垢材を多く使用し、手仕事で仕上げたイスやチェストなどが高い評価を受けています。工場に併設するショールームでは定番品から新商品まで豊富に展示、販売していて、訪れるときつと一生モノの家具に出会うことができます。

また、2018年度の就航率は99.7%を誇り、除雪体制が充実していることから、雪の多い北海道でも安心して利用できるのも特徴です。空港の隣に位置する公園「グリーンポルト」からは滑走路が見渡せ、飛行機の離発着を間近で見ることができ、民営化により更なる発展が期待されている、魅力満載の旭川空港を利用し、東神楽町へぜひ遊びに来てください。

コースを揃えていて、室内パークゴルフ場もあるので、冬季でもプレーできます。

また、積雪期間にも、公園内にスノーラフティングや雪中バブルサッカーが楽しめる「雪の遊び場 ウパシの森」がオープンし、北海道らしい雪遊びを体験することができ、一年中アウトドアが楽しめます。

キャンプ場は、700人収容のフリーサイトのほか、オートキャンプ場も50サイトあり、テントなどはレンタルも可能です。また、おしゃれでインスタ映えするアウトドア用品を使用し、設営から撤収までスタッフが行う「プレミアムプラン」もご用意している

ので、アウトドア初心者でも安心です。林に囲まれた広々とした空間の中で、ゆつたりと自然を楽しんで



光はもろろん、道北の観光地である旭川市や美瑛町、富良野方面など、どこにもアクセスしやすく、観光拠点に最適です。花神楽に泊まって道北を満喫してみたいかがでしょうか。

○大雪山カントリークラブ
北海道の雄大な自然を感じながらプレーできるゴルフ場で、旭川空港から車で

○匠芸（木製家具&クラフト）

いまや世界ブランドである「旭川家具」は、明治時代末期に北海道の開拓を目

○町のキャラクター紹介

「かぐらつき」は「花のまち東神楽」らしくアルストロメリア、パンジー、チューリップの3種類の花を頭に載せている妖精です。北国をイメージした白い体に、町花であるツツジの花びらの形をしたピンクのマントを身にまとっています。花や植物のお世話が大好きな優しい性格で、いつもニコニコしている反面、寂しがりやなのでたくさんのお友達を作りたいと思っています。

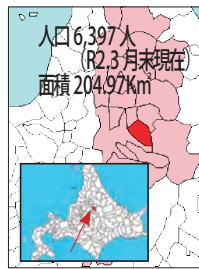
指でアルファベットの「L」の形をつくって、体の前でぐるっと一周させる決めポーズ「かぐらLUCKY」は、出会った人に幸運(LUCKY)を呼び込むと言われています。

好きな場所は、旭川空港、森のゆ花神楽、ひがしかぐら森林公園で、好きな食べ物、東神楽産のお米とアスパラです。



当麻町とは

当麻町は、北海道の穀倉地帯といわれる上川総合振興局管内のほぼ中央、北海道の屋根・大雪山連峰の麓、東経142度50分、北緯43度82分に位置しています。東側は山伝いに上川町、愛別町と、北側は大雪山系に源を発する石狩川に沿って比布町と隣り合い、南西は北・北海道の拠点都市旭川市に接しています。



地名の由来はアイヌ語の「ト沼・オマ」(に入る)から来ています。大昔の当麻は石狩川、牛朱別川、当麻川、清水川など河川の氾

濫で、至る所に沼や湿地があったと言われています。

永山村に属していたトオマに屯田兵により開拓の鎌が下ろされたのは明治26年。明治33年には永山村から独立して當麻村となり、昭和33年には町政が施行され現在の当麻町となりました。

豊かな土壌と総面積の約65%を占める山林を活かした農林業が盛んです。農作物では高級すいかの代名詞として全国に知られる「でんすけすいか」、北海道でもトップクラスの良食味米として評価が高い「当麻米」、道内でも随一の生産量を誇るキウリやトマトを始め、「夏バラ日本」として市場からの評価が高い「大雪の薔薇」、町花でもある菊などの栽培が盛んです。林業では民有林の約半分以上が人工林で、その8割

を始め、「夏バラ日本」として市場からの評価が高い「大雪の薔薇」、町花でもある菊などの栽培が盛んです。林業では民有林の約半分以上が人工林で、その8割

イベント情報

・**蟠龍まつり**
当麻鐘乳洞が龍にまつわる鐘乳洞であることから名付けられた夏最大の当麻のイベント。毎年8月第1週



の日曜日に開催されます。役場前の駐車場を利用し大人も子どもも楽しめるイベントが行われる他、長崎の蛇踊りをモチーフにした「当麻蟠龍隊」による龍おどりや、郷土芸能の「蟠龍太鼓」が見所です。

・新米新そば祭り

そばの生産も盛んな当麻町。新米新そば祭りは10月第1週日曜日にJR当麻駅前で行われ、各地のそばの食べ比べや、採れたて新鮮な野菜の販売など、秋の味



覚をたっぷり楽しむことができます。

・**キャンドルライトフェスティバル**
町内の青年団体が主催するイベント。2月上旬に役場横で開催されます。雪の巨大滑り台や、スノーモービル牽引のパナポートなど雪と一緒に楽しめる催しをたくさん用意。夜にはアイスキャンドルをライトアップし幻想的な空間を作り出します。

町の取り組み

○「食育木育花育」を進める当麻町

人間が生きていく上で必要不可欠な食糧には、全て命があり、我々はその命をいただいで生きていけると言うことを忘れてはいけません。まさに食事の前に発する「いただきます!」の言葉の意味を知ることが当麻町の食育です。この思いを子ども達へ伝えるために、当麻町は「田んぼの学校」と名付けた圃場を所有し、そこで食用米を育てています。田植えや稲刈りを行うのは子ども達。そして育てたお米は全量、子ども達が食べる給食用米に充てられます。食べる命を育てること、その命の尊さを学びます。



き抜き、力強くそびえる樹木に触れ、命のたくましさや温もりを感じるのが当麻の木育。拠点施設である「くるみの木遊館」に「くるみの木の散歩道」の他にも町産材を利用し、自らが製作した机を中学生生活で使用する「ふるさと思い出機事業」を行っています。

花に触れ、その生命の美しさを覚えるのが当麻の花育。目で花の美しさを感じ、鼻で花の良い香りを吸い、

手で花びらの柔らかさに触れ、耳で風にそよぎながら唄う花の声を聞き、時には花びらを口に含みその味覚を感じる。五感で花の命を感じる花育の拠点「くるみの庭」の他に、お子さんの誕生日に毎年、特産品である薔薇の花束と本をプレゼントする活動も行っています。

この「3育」の取り組みは基幹産業である農林業と密接につながっており、

○ふるさと納税

いつも当麻町を応援して頂いているみなさん、本当にありがとうございます。

当麻町の「食育木育花育」は、ふるさと納税というみなさんの温かい応援があるから進めることができます。当麻町の温もりを少しでも届けたいという思いでご用意させて頂く返礼品は、町民皆さんの温もりが籠もっています。

いつでも新米のおいしさが楽しめるお米「今摺米」を始め、当麻鐘乳洞熟成日本酒「龍乃泉」、トマトジュース、野菜セツト、まな板、表札など当麻町ならではのオリジナルグッズをご用意しています。

詳しくは「ふるさとチョイス」当麻町」で検索願います。



「食育木育花育心を育てるまち 当麻町」

観光スポット

○当麻山



コテージやログハウスもあるので小さなお子さんがいるご家族にも最適です。世界の昆虫館「パピヨンシャトー」では1万点の標本を展示。中には貴重な昆虫も展示されており、さらに隣接する生態観察室では生きた昆虫を観察することもできます。また当麻山には「木育」と「花育」の拠点が整備されています。花に触れ、その生命の美しさを感じるのが当麻の花育。その拠点である「くる

発揮して、広いフィールドで思いっきり遊ぶことができます。

自然の中で生きる樹木。北海道の厳しい環境を生き抜き、力強くそびえる樹木に触れ、命のたくましさや温もりを感じるのが当麻の木育。拠点の一つである「くるみなの散歩道」は当麻山を1周できる約3kmの遊歩道で、森林浴を楽しみながら、道端に生きる樹木や



キャンプや生木を使ったウッドクラフト「グリーンウッドワーク」などを楽しむことができます。また真冬の当麻山も楽しんで頂くために、冬期間は日本最北端の冬キャンプ場「スノーキャンプサイト」を開設。極寒の中でのキャンプを味わうこともできます。スノーシューのレンタルも行っていますので、真冬の軽登山を楽しむことも可能です！冬は当麻山スキー場もオープンしていますので、スキーで遊んで、ス

E-mail : kouhou@town.tohma.hokkaido.jp
公式ホームページ : <http://www.town.tohma.hokkaido.jp/>

市街地からさほど離れていない場所にある「当麻山」。麓には遊べる場所がたくさん！30点のバラエティに富んだポイントが配置されるフィールドアスレチックは、子供も大人も心地良い汗をかきながらアクティブに楽しむことができます。キャンプ場には炊事場はもちろんパーベキューハウスも用意。大人数でキャンプを満喫できます。車で乗り入れることができる

植物に触れることができます。また展望台へ向かう登山道にもつながっており軽登山を楽しみながら、頂上では広大な上川盆地を見渡すこともできます。

ノーシューで散策して、へばれています。冬期間休業ルシューシャトーで暖かいお風呂に入って、暖かい装備でテントで就寝...といった北海道の冬を1日満喫することも可能です。



もう一つの木育の拠点が「くるみなの木遊館」。館内には数多くの木製遊具が設置され、木の温もりを感じながら、思いっきり遊ぶことができます。また木材加工場が隣接しており、窓越しに加工の様子を見学することも可能です。他にも当麻山麓には温浴施設「ヘルシーシャトー」、野球場、テニスコート、当麻発祥の軽スポーツ「フィールドボール」等があり、1日中当麻で遊ぶことができます。

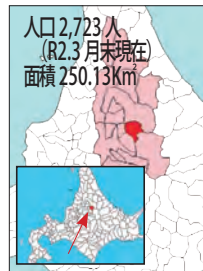
近年、需要が高まりつつある「アウトドアアクティビティ」。キャンプ場がある当麻山でも、ハンモック



●お問い合わせ
当麻町役場 TEL: 078-1393 北海道 上川郡 当麻町 3条東2丁目11番1号
TEL: 0166-84-2111 FAX: 0166-84-4883

愛別町とは

愛別町は、北海道のほぼ中央に位置する上川盆地の東北端、北海道の屋根と呼ばれる雄大な大雪山連峰の麓にあります。



開拓の鍬が下ろされたのは明治28年(1895年)で、和歌山・岐阜・愛知から179戸が入植し、その後明治30年(1897年)に愛別村が誕生しました。愛別の町名は、「矢の川」という意味のアイヌ語「アイペツ」から来ており、急傾斜の土地で川の流れが矢のように速いところから命名されました。

○特産品

昭和47年(1972年)からはきのご栽培に取り組み、今では北海道でも屈指の「きのこの里」として知られています。

現在のはえのき、なめこ、舞茸、椎茸、えぞゆきのした、きくらげの6種類のきのこを生産しており、中でもえのき・なめこは道内1位、舞茸は道内2位の生産量を誇っています。

近年は健康食品として注目を集める野菜「ビーツ」の栽培にも取り組み、新たな加工品開発にも取り組んでいます。「ビーツ」とは、赤カブのように見えますが、ほうれん草と同じ仲間です。「食べる輸血」と言われるほど、食物繊維や様々な成分が豊富に含まれている野菜です。ロシア料理の「ボルシチ」で使われてい

る野菜として一般的に知られています。

○イベント情報

・きのこの里フェスティバル
愛別町の秋の風物詩となっている一大イベントで、毎年9月第2日曜日に開催しています。毎年、約8000人規模のご来場をいただいています。



「きのこの里あいべつ」ならでは、この「きのこ」をふんだんに使い、直径3.5m・深さ2mの大鍋で作る「ジャンボきのこの鍋」や100升のお米を一気に炊く「百姓一揆炊き」など見所満載のイベントとなっています。

り、この日は町全体でおもてなしをいたしますので、ご家族・ご友人・恋人と、楽しい秋のひと時をお過ごしください。
令和元年(2019年)から、会場を「農村公園内」に変更し、イベントの雰囲気もガラッと変わっていますのでぜひ一度足をお運びください。

・雪中ソフトボール大会
毎年3月第1日曜日に開催されるイベントで、雪原の中を赤く塗られたボールを追いかけるソフトボール大会です。(参加料1チーム5500円)
ソフトボールの経験に関係なく楽しめるよう、特別のルールがあり毎年珍プレーが続出します。会場では、観戦者の方も無料でこの汁を食べることができ、試



合終了後は、参加賞のジンギスカンを会場場で焼いて食べることができ、春の1日を仲間と走り、転んで、跳んでハッスルしてみませんか。

町の取り組み

○愛別町の取り組み

・ハッピーボーン
愛別町では、赤ちゃんが生まれると、花火を上げて町民みんなで誕生をお祝いする「ハッピーボーン」という取り組みを行っています。

町民有志で結成された「祝っちゃう会」が、「町で生まれる子どもは少ないから、皆でお金を出し合って町で生まれる子どもをお祝いしてあげよう。」との思いから、平成2年(1990年)に打ち上げを始めました。

現在までの総打ち上げ数は500件以上にのぼり、花火が打ち上る度に、それを見た町民は、新たな命の誕生をお祝いしています。

・君の椅子」プロジェクト

ハッピーボーンの取り組みがきっかけで始まった「君の椅子」プロジェクトにも参加しています。「君の椅子」プロジェクトは、生まれた子ども達に北海道産材を使った木製の椅子をプレゼントする取り組みで、座面の裏に名前・生年月日・連番が刻印された「世界に一つだけの椅子」が子ども達に手渡されます。

「子どもは地域の宝である」ということを再認識し、「子どもが誕生する喜びを共に分かち合える地域社会でありたい」との思いから生まれたプロジェクトで、「生まれてきてくれてありがとう。君の居

場所はどこにあるからね。」という思いを込めて、平成18年(2006年)に東川町からスタートしました。愛別町も祝っちゃう会が主体となり、平成22年(2010年)から取り組みに参加し、現在では道外の2つの村を含む8つの自治体が参加しています。



「あいべつ夏まつり」の魚つかみどりに はしゃぐ子供達

○ふるさと納税(寄附)

愛別町では、ふるさと応援寄附として皆様からいただいた寄附を、健康・福祉・子育てに資する事業や、農業・観光等の産業に資する事業など、愛別町のより良いふるさとづくりのため、様々な事業に活用させていただきます。

ぜひQRコードの愛別町HPから各ポータルサイトにアクセスしてご利用ください。「返礼品の紹介」特産品の「きのこセット」や、きのこをふんだんに使用した「カレー」、愛別町産のもち米を使った「あんもち」、協和温泉の「温泉旅館宿泊券」など、様々な返礼品を取り扱っています。

また、「愛別町産のお米(ゆめぴりか・ななつぼし)」は、寄附者様のニーズに合わせ、定期配送(3か月・6か月・9か月・12か月)も行っており、大変好評です。



愛別町ホームページ



「愛のあるまち 愛別町」

観光スポット

○きのこの里あいべつ
オートキャンプ場



イレ、あずま屋、
ゴミステーションなどの設備も整っており、管理棟内にはキャンプグッズのレンタル(テント10000円、寝袋5000円)はもちろんのこと、町内の特産品や地元

愛山地区にある「きのこの里あいべつ」オートキャンプ場は、雄大な大雪山連峰を望む、石狩川沿いの自然豊かなキャンプ場です。
場内には「キャンピングカーサイト(電源30A2口給水栓、汚水排水口付き)1泊4500円、日帰り2500円」「スタンダードカーサイト(電源15A2口付き)1泊3500円、日帰り2000円」「フリーテントサイト(テント1張り1500円)(タープ1張り500円)」の3つのサイトがあり、本格的なキャンプからデイキャンプなど、お客様それぞれの楽しみ方でお過ごしいただくことができます。

売機など、キャンパーにとってもうれしい設備が完備されています。

家である松浦武四郎や間宮林蔵が一夜を明かしたとされる洞窟もご覧いただけます。



石垣山はアイヌの伝承で「サン」と呼ばれるサン・コロ・カムイという病魔を追い払う力を持つ神がいたと言われている場所で、アイヌの古戦場になったという伝説も残っています。
毎年7月上旬には山開きとして石垣山観光まつりが開催され、多くの皆様が登山を楽しんでいます。

ておりますので、ドライブの途中に立ち寄ることもでき、団体割引や協和温泉の入浴パックもありますので、ぜひ一度お立ち寄りください。

○協和温泉

協和温泉は愛別町内唯一の温泉施設で自然林に囲まれた静かな湯元です。

泉質は「単純二酸化炭素冷鉱泉(弱酸性低張性冷鉱泉)」で、神経痛や関節痛、冷え性、高血圧、痛風、慢性皮膚病、糖尿病、動脈硬化症など多くの症状に効能があります。

日帰り入浴料は大人500円、小人250円、宿泊はご家族でゆっくり寛げる和室タイプと個人旅行やビ



○石垣山



キャンプ場周辺施設の1つとして、平成30年度に日本遺産に認定された「カムイと共に生きる上川アイヌ」大雪山のふところに伝承される神々の世界」の構成文化財である「石垣山」の登山道入口があり、2時間程度で標高525mの石垣山登山を気軽に楽しむことができます。

○きのこの里パークゴルフ場

きのこの里パークゴルフ場は、国道39号線沿いの「あいべつ」リバーフロントパーク」内にある全45ホールのパークゴルフ場です。
大雪山の眺望と流れゆく石狩川、雄大な景色に囲まれ、さわやかな風を感じながらプレイすることができます。

ジュネスにも最適な洋室タイプの2タイプがあります。を存分にお楽しみください。料理は「きのこのフル」。

○町のキャラクター紹介

町内の一大イベント「あいべつ」きのこの里「フェスティバル」のキャラクターです。
あいちゃんマンは昭和62年(1987年)の第1回から同フェスティバルのポスターに登場しています。



町の特産品である「きのこ」は、健康食品、食べ物の中、ヒーローであり、その魅力が空を飛ぶように広く伝わって欲しいというイメージから生まれました。

平成27年(2015年)には恋人のキャラクター「愛にあふれる愛別町で生まれた女の子」ラブリーちゃん」が誕生し、今では2人仲良く愛別町とフェスティバルのPR活動をしています。

この他、炊事施設(4カ所)や野外炉、屋外ト

この山の特徴である柱状節理の岩肌は一見の価値があるとともに、幕末の探検

周辺には石狩川を境にキャンプ場、石垣山があり、吊り橋を渡って石垣山登山もお楽しみいただけます。

必要展望地となっており、晴天の日には壮大な景色を感じながら1日をお過ごしいただけます。

比布町とは

比布町は、北海道中央部の上川盆地に位置し、日本穀物検定協会が毎年開催の「米の食味ランキング」において、最高ランクの特Aを獲得している「ゆめぴりか」発祥の町です。また、町の東側には北海道を代表する河川「石狩川」が流れているほか、「北海道の屋根」と呼ばれている大雪山連峰を一望できることから、「世界一大雪山がきれいに見える町」として町内外にPRしています。本町の産業はお米を始めとして、きのこ、メロン、オク

ラなど様々な農産物が栽培されており、大正時代から栽培が盛んに行われているいちごは町の主力な農産物となっており、また、盆地特有の気候により夏は気温が30度を超え、冬はマイナス20度を下回る日も珍しくなく、気象条件が厳しいですが季節がはつきりとした自然豊かな町です。



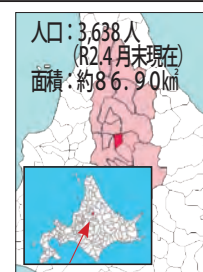
らう、宝交)のいずれかを町内10ヶ所の農園で味わうことができます。露地いちごは太陽をたくさん浴びると香りも堪えられることから、毎年多くの来園者で賑わっています。

ちみん泥だらけになつており、今では比布を代表する夏のイベントとなっています。

を見せる行事の一つとなっています。

PIPPU SNOW NIGHT FESTIVAL

「いちごとスキーの町」として町内外から多くのスキーヤーが訪れるびっぷスキー場で、2月中旬に開催されるイベントです。普段味わうことができないキツチンカーによる飲食ブースや比布町応援大使による音楽イベントをはじめ、夜の凍れた夜空に咲く大輪の花火は夏の花火とは一味違う幻想的な雰囲気となっています。



メロン、オク

「イベント情報」
 □びっぷいちご狩り
 ・例年6月下旬〜7月中旬にかけて、露地栽培されているいちご2種類(けんた

へイベント情報」
 □びっぷ丸ごと水田！泥んこだらけのバレー大会
 ・町内の休耕田を利用し、毎年7月中旬に開催。優勝商品の町産米2俵を賭けて町内外から多くの方が参加しています。田んぼの中にネットを設置してのバレーは足がぬかるみ思うようにプレーできないことから、最初は泥が付くことに抵抗のある大人達も白熱するう



町の取組み

「住んで良かったと思えるまちをめざして」をまちづくりの基本理念に、

1. 「育」(子育て) 安心して子供を産み育てることができるまち
2. 「職」(しごと) 働く人を応援するまち
3. 「住」(住まい) 快適に住み続けることができるまち
4. 「安」(安全・安心) いつまでも安心して比布町に暮らし続けることができるまち

の4つの基本目標を柱として、まちづくりに取り組みんでいます。

が重要と考え、その世代の方々が安心して子育てできる環境を整備できるよう、子育て支援施策のワンストップ化や親子が集う場の整備などの施策に取り組んでいます。

2. 「職」(しごと) 働く人を応援するまちを基本目標として、人口減少を緩やかにものにするために、働く場の確保も重要なポイントになることから、町内の雇用の場として農業、商工業、観光などの業種と町が連携を密にし課題解決ができるよう、既存事業所支援や人材不足対策、AI等の先端技術を取り入れた農業の研究などの施策に取り組んでいます。
3. 「住」(住まい) 快適に住み続けることができるまちを基本目標として、町民
4. 「安」(安全・安心) いつまでも安心して比布町に暮らし続けることができるまちを基本目標として、町民の方々がいつまでも本町に住み続けたいと思える町になること、安住の地として本町を選んでもらえるよう、誰もが安心して住み続けることができるよう、買い物環境の維持・整備や移動弱者への対策、各種インフラの修繕・整備を計画的に進めるなどの施策に取り組んでいます。

○ふるさと納税
 比布町にゆかりのある皆さま、比布町を応援したいと活気づけてくださる皆さまからの応援をいただきながらまちづくりを進めています。これからも比布町を愛する多くの方々に参加いただき、一緒に比布町の未来を創っていきましょう。

皆さまからいただいた寄付については比布町の施策に活かすため、「子育て支援・教育に関する事業」、「高齢者の福祉に関する事業」、「自然環境保全に関する事業」、「産業振興に関する事業」などの事業に活用させていただきます。

【返礼品紹介】道内有数の米どころで栽培された「ゆめぴりか」、「ななつぼし」などの農産品や卵かけご飯にぴったりの「かっぱの健卵」、特産品の千本ねぎを使用した醤油・タレセットが人気です。



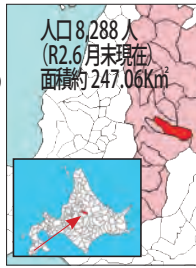
1. 「育」(子育て) 安心して子供を産み育てることができるまちを基本目標として、子育て世代人口の確保

3. 「住」(住まい) 快適に住み続けることができるまちを基本目標として、町民

す。

東川町とは

概要
東川町は、北海道のほぼ中央に位置する人口約8300人の小さなまちです。北海道第2の都市・旭川市から車で約30分、旭川空港からは15分弱と大都市圏からのアクセスも良好ながら、大自然に恵まれた豊かな環境にあります。



昭和60年(1985年)に世界にも類を見ない「写真の町」宣言を行ってから36年。「町民が参加し、後世に残し得る町づくり」として、「自然と人」、「人と文化」、そして「人と人の

出会い」を大切に、「写真の町」の良き町づくりを進めてきました。平成26年(2014年)には「写真文化首都」を宣言し、写真文化の中心地として、世界中の写真、人々、そして笑顔に溢れる町づくり、に取り組んでいます。

★特産品

★東川米と大雪旭岳湧水

東川町は、大雪山の大自然が長い年月をかけて蓄えた清流を、一番はじめに生活水や農作業用水に使っています。他では真似のできない素晴らしい気候風土とミネラル豊富な水で育てられる新鮮で安全なお米や野菜は当然、「美味しい」。全道6地区から選抜された道産ブランド米「ゆめぴりか」の出来ばえを競うコンテスト、「ゆめぴりかコンテスト」



ト2019」でも最高金賞に輝きました。

「味しらべ」(いずれも岩塚製菓(株)製)が販売されています。ぜひご賞味ください。

★東川ドライベジ

ミネラル成分豊富な地下水で栽培される東川の野菜「ひがしかわサラダ」その「ひがしかわサラダ」を新鮮なまま乾燥させて旨味・栄養を凝縮した乾燥野菜が「東川ドライベジ」です。ミニトマト、長ネギ、だいこん、にんじんの4種類あり、長期保存も可能なので、季節を問わずご家庭でお手軽にひがしかわサラダを楽しめます。



イベント情報
★フォトフェスタ
毎年8月初頭にメイン会期を行っている東川町国際交流写真フェスティバル(「フォトフェスタ」)。全国高等学校写真選手権大会(「写真甲子園」)、HIGH SCHOOL I KAWAユースフェス(「高校生国際交流写真フェスティバル」)、ひがしかわどんこい祭りと一体的に行われる「写真の町」一大イベントです。まちな全体が「写真」に染まる光景は圧巻です！
今年は昨今の状況を受け、残念ながら例年の形で開催することは叶いませんが、写真甲子園はインターネットを通して公開審査会や写真教室を行うなど、「コロナ時代」においても写真を通して「人と人の交流」を育んでいきます。

町の取り組み

○「写真」を軸とした人と人の交流
東川町には、「写真文化」を起点にさまざまな文化が根付いています。

全戸が大雪山の伏流水で暮らす「地下水の町」、おいしい米や水、野菜を活かした「カフェの町」、世界にその名が轟くブランド・旭川家具の約30%を生産する「家具・クラフトの町」、北海道最高峰・旭岳を擁する「大雪山文化」が根付いた町、海外との交流が盛んな「多文化共生の町」といったさまざまな要素が出会い、互いに影響し合うことで、「東川スタイル」と呼ばれる豊かな文化を育んできました。

近年は、そうして東川の地に脈々と蓄積されてきた

「モノ」や「自然」、「文化」や「生活様式」を広く資源として捉え、「写真の町」として取り組んできた36年間で蓄積された日本国内に留まらない国際的なネットワークを活用したまちづくりを行っています。

○「東川ファン」を生み出す
東川町は多様な人々との関わりから人の流れを生み出し、文化や経済の循環を行って行っています。今、私たちが目指しているのは、過疎でも過密でもない、適度に疎がある「適疎なまち」(※「疎」=「余白」の意)。

本町は全国でも珍しく人口が増加傾向にあります。が、定住人口を増やすだけでなく、東川町を好きになり、継続的に町と関わっていただける「東川ファン」を世界中に生み出すこと

で、「この地に脈々と培われてきた文化」と「新たな文化」という文化を、共に大切に育んでいきます。

○ひがしかわ株主制度

(ふるさと納税)

東川町では、ふるさと納税の仕組みを活用し、町を応援していただける寄付者を「ひがしかわ株主」、寄付を「投資」と位置づけた独自の取り組みを行っています。一般的なふるさと納税と異なるのは、株主が東川ならではのプロジェクトの中から投資したい事業を選ぶことができる点です。自ら投資先を選ぶも東川のまちづくりに参加してみませんか？

⑥ 滞在型交流施設整備事業

⑦ ひがしかわワイン事業

⑧ 農業を守り育てる事業

⑨ 文化財活用推進事業



「写真の町」写真文化首都「東川町」 観光スポット

○キトウシ森林公園家族旅行社
東川町の北側に位置するキトウシ山(標高457m)の一角に広がる自然公園で、その広さは東京ドーム約25個がすっぽり入るほどの広大なエリアです。園内には北海道上川管内で最長のゴーカート、ジャブジャブ池など子どもの喜ぶ施設があるほか、この広大なロケーションを生かしたアウトドア施設として、パークゴルフ場スキー場(キャンモアスキービレッジ)、キトウシ高原ホテルのトロン温泉、長期滞在可能な宿泊施設ケビンがあり、1年を通して自然の美しさや野生動物との出会いを体験できます。

○キトウシ森林公園家族旅行社

観光情報の発信や、東川米・野菜・スイーツ・ソフトクリーム・地元カフェで焙煎されたコーヒーなどの販売、ロードバイクのレンタルを行っている。カフェ巡りに重宝する「ひがしかわグルメマップ」や東川らしいバラエティに富んだお店を紹介する「家具とクラフトいろいろお店マップ」の「逐一」も最新情報にアップグレード!



最新情報にアップグレード!

図書貸出機能を持つ「ほんの森」、東川賞受賞作家の写真集などの写真コレクションや世界の作家家具の展示、家具&木工クラフトや東川町関係書籍の展示販売、大雪山文化を紹介する大雪山アイカイクスなどのいろいろな側面を持つ、東川町の文化の発信拠点です。

「複合交流施設」の名の通り、ここでイベントなどを通してさまざまな人と人や東川町関係書籍の展示販売、大雪山文化を紹介する大雪山アイカイクスなどのいろいろな側面を持つ、東川町の文化の発信拠点です。

「複合交流施設」の名の通り、ここでイベントなどを通してさまざまな人と人や東川町関係書籍の展示販売、大雪山文化を紹介する大雪山アイカイクスなどのいろいろな側面を持つ、東川町の文化の発信拠点です。



旭岳ビジターセンターでは、日本一の広さを誇る「大雪山国立公園」や北海道の屋根「旭岳」の自然や歴史を学び、満喫することが出来ます。登山に必要な情報の発信やエコツアアなどの体験プログラム、大雪山にまつわる映像上映、長靴やスノーシュー・クロスカントリースキーなどのレンタルも行っています。旭岳は活火山なので温泉



また、このエリアにある旭岳クロスカントリースキー場は、日本で最も早く、そして長い期間クロカンを楽しめる場所として、日本全国のトップ選手たちの練習場所にもなっています。

○町内すべてが観光スポット
ここまで「観光名所」を紹介してきましたが、実は東川町は町じゅうが観光スポット。

たとえば、小さな町の中に50を超えるカフェや飲食店があり、それぞれがこだわりをもって自慢のメニューを提供しています。全戸が地下水で生活するまちなので「水」を活かしたお店も多く、たとえば豆腐やうどん、コーヒーなど

今年10月19日まで、キトウシ山の中腹にある「展望閣」にて写真展を開催中です(入場無料)。季節ごとに姿色を変えるキトウシ山の動植物の表情をぜひご覧ください。3階のデッキからは東川町を



「せんとびゅあー」は、コンサートやイベントを行う講堂、世界の名作椅子等の「織田コレクション」を展示するギャラリー(入場無料)、全国初の公立日本語学校、各国の文化に触れられる多文化共生室、ひがしかわ食堂ワッカからなる施設です。

「せんとびゅあー」は、コンサートやイベントを行う講堂、世界の名作椅子等の「織田コレクション」を展示するギャラリー(入場無料)、全国初の公立日本語学校、各国の文化に触れられる多文化共生室、ひがしかわ食堂ワッカからなる施設です。

旭岳エリア
東川町民の誇りであり、北海道一の標高を誇る「旭岳」(2291m)は、緯度が高いため本州の3000m級の自然環境に匹敵します。それでいて、5合目(標高約1600m)の「姿見駅」までは旭岳ロープウェイで簡単に行くことができ、姿見園地では「姿見の池」「夫婦池」をはじめとした雄大な自然や、エゾシマリス、ギンザンマシコ、チングルマなどの動植物に(時期と運が良ければ)出会う、身も心もリフレッシュできる素敵な場所です。



「写真の町」らしく、公設ギャラリーだけでなく、写真を飾ったり個展を行っているお店も少なくありません。どこへ行っても写真

一望することもできます。(ちなみに「キトウシ」とは、アイヌ語の「キトウシ」=「行者ニンニクの群生地」を意味します。)



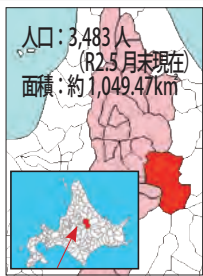
「せんとびゅあー」は、コンサートやイベントを行う講堂、世界の名作椅子等の「織田コレクション」を展示するギャラリー(入場無料)、全国初の公立日本語学校、各国の文化に触れられる多文化共生室、ひがしかわ食堂ワッカからなる施設です。

旭岳エリア
東川町民の誇りであり、北海道一の標高を誇る「旭岳」(2291m)は、緯度が高いため本州の3000m級の自然環境に匹敵します。それでいて、5合目(標高約1600m)の「姿見駅」までは旭岳ロープウェイで簡単に行くことができ、姿見園地では「姿見の池」「夫婦池」をはじめとした雄大な自然や、エゾシマリス、ギンザンマシコ、チングルマなどの動植物に(時期と運が良ければ)出会う、身も心もリフレッシュできる素敵な場所です。

「写真の町」らしく、公設ギャラリーだけでなく、写真を飾ったり個展を行っているお店も少なくありません。どこへ行っても写真

上川町とは

上川町は、北海道のほぼ中央部に位置するまちです。日本最大の山岳公園「大雪山国立公園」の玄関口として古くから親しまれ、国内外から年間180万人のお客様が訪れる層雲峡温泉をはじめ、愛山溪温泉、高原温泉など3つの温泉郷を有します。



また、大雪山を間近に望む「大雪山高原・旭ヶ丘」や、日本の滝百選にも選ばれた「銀河・流星の滝」、日本一早く最も美しいとも言われる「大雪山の紅葉」など観光名所が豊富な自然環境に恵まれた国際観光のまちです。また、四季の変化に富み、夏は冷涼で過ごしやすく冬はスキー・スケートなどウィンタースポーツが盛んなまちです。

◆イベント情報

○層雲峡温泉氷瀑まつり
毎年1月下旬から3月中旬に開催される北海道を代表する冬のイベントの一つです。層雲峡の寒冷な気候を利用して氷の建造物が造られ、7色の光によって幻想的な光景を作り出します。氷の建造物には、高さ約15メートルの展望台や氷柱、氷のトンネル、氷瀑神社が造られているほか、上川町の地酒が楽しめる北の氷酒場も設置されています。会場で行われ



るイベントに、オープンングセレモニー、氷瀑太鼓お楽しみ抽選会、アイヌ舞踊、氷瀑ウエディング、餅まきなど多種多様なものが催され、花火の打ち上げも行われます。



や雑貨類といった地場特産品のPR販売、親子連れをターゲットにしたキッズエリアの設立を行うなど、若者を中心とした幅広い世代に楽しんでいただけるイベントです。

○紅葉イルミネーション

毎年9月中旬から10月中旬にかけて層雲峡紅葉谷で開催されるイベントです。大雪山国立公園内でライトアップを行うことから、生態系への影響、自然保護・保全の観点から実現が不可能かと思われていたが、時間や場所を限定することによって、平成30年(2018年)に大雪山国立公園内初のライトアップイベントとして実現されました。また、人の動きに連動して紅葉が散っていくように見える、インタラクティブプログラムによるマッピングも魅力の一つです。



○カミカワ音プロジェクト
7月上旬に開催されている音楽イベントで、上川町の若手有志が実行委員会を設立し、2年間実施してきました。今年度に関しては、新型コロナウイルスの影響で中止となっていますが、来年度以降の開催に向けて準備を進めています。音楽だけでなく地場産食材を中心としたフードマルシェやイベント会場である「大雪山のガーデン」の園芸商品

町の取組み

「大雪山の自然と豊かな恵みを活かす」誰もがいきいきと心豊かに暮らせるおもてなしのまち「上川」を基本理念に①まちの産業を担う安定した雇用を創出し、支える人をつくる②まちの資源や特性をいかし、新しい人の流れをつくる③結婚・出産・子育ての希望をかなえ、誰もが活躍できるまちをつくる④ひとが集い、安全で安心して暮らせる魅力的なまちをつくるを基本目標に掲げ、まちづくりに取り組んでいます。

○まちの資源や特性をいかし、新しい人の流れをつくる
移住・定住対策の推進として各種支援策の推進や住宅・住環境の整備、就業支援に努めるとともに、ふるさと納税制度の活用や都市部への魅力発信を積極的に行うことで交流人口や関係人口の拡大に取り組みんでいます。

○結婚・出産・子育ての希望をかなえ、誰もが活躍できるまちをつくる
基幹産業である農林水産業、観光業における雇用の確保や人材育成、就業の安

定化、後継者問題に取り組みと共に、特産品開発及び販路拡大、起業家支援、再生可能エネルギーの活用による産業振興に取り組みしています。

○まちの資源や特性をいかし、新しい人の流れをつくる
移住・定住対策の推進として各種支援策の推進や住宅・住環境の整備、就業支援に努めるとともに、ふるさと納税制度の活用や都市部への魅力発信を積極的に行うことで交流人口や関係人口の拡大に取り組みんでいます。

○結婚・出産・子育ての希望をかなえ、誰もが活躍できるまちをつくる
安心して出産・子育てができる環境を創り出すた

め、出産支援の充実、子育て支援の充実、学習・教育環境の充実といった支援、助成制度に取り組みしています。また、男女の出会いの場の創出や地元高校の存続などの取り組みを進めています。

○ひとが集い、安全で安心して暮らせる魅力的なまちをつくる
市街地の活性化や層雲峡地区のインフラ整備、地域の防災機能の強化、雪対策の充実、他地域や民間等の連携強化による生活機能の充実を図るとともに、医療・介護体制、福祉・在宅ケア制度などの社会保障の充実に取り組みしています。

○特産品
大雪山高原牛、溪谷味豚(ブランド肉)、にじます、

大雪山高原野菜(大根ほか)、メン、よもぎ餅、ハム・ソー大雪山そば、そば焼酎、ラーゼージ、日本酒ほか

○ふるさと納税(寄附)

上川町への応援を趣旨とするみなさまからのあたたかいご支援とお気持ちをいただいています。「自然と調和した未来へ恵み豊かな大地と人がある」をおもてなしのまち「上川」をまちの将来像に掲げ、頂いた貴重なご寄付は、町が実施する自然環境保護や教育・福祉・産業振興など、まちづくりの充実と発展のため大切に使用させていただきます。

お礼の品は、赤ピーツやとうもろこし、メロンなどの農産物、層雲峡ラーメンや日本酒「神川」、レストラン「フラテック・ディ・ミクニ」お食事券など上川町の特産品を数多く取り揃えています。



詳細は「ふるさとチョイス 上川町」、「さとふる 上川町」で検索してください。
担当課：上川町役場企画総務課

「大雪山国立公園の玄関口 上川町」

観光ス・ポット

○大雪森のガーデン

大雪山系を一望するこ
とができる高台にある
ガーデンです。約900
品種の草花が彩り、華や
かに植栽された美しい庭
園で、シーズン毎に全く
異なる表情に変化する様
子を楽しむことができます
「森の花園エリア」、起伏
がある地形、そして従来
からこの地に生き続ける
自然の樹木や草花を活か
して造り上げた「森の迎
賓館」、深い森の中に広
る空間に交流体験棟や森
の木琴、鳥の目になるテ
ラス、リング型ブランコ
など家族みんなが楽しむ
ことのできる「遊びの森
エリア」の3つのエリア
から構成されています。

を提供してくれる草花をこ
覧に、ぜひお立ち寄りくだ
さい。

○大雪かみかわヌクモ

令和元年(2019年)
7月13日に開設した、廃校
になった小学校をリノベ
ーションして作られた施設
で、元々の建物だった旧
東雲小学校の「雲(くも)
を生かし、地元住民と移住
者、観光客との「温もりあ
ふれる」交流の場を目指し
たいという思いで名づけら
れました。

主に4つの機能を持った
施設となっており、チーム
ラボプロデュースで北海道
初の常設展示である子ど
も向けデジタルプログラ
ム「あそぶ！天才プログラ

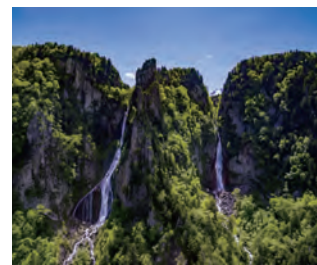
連れの方ももちろんです
が、カフェでほっと一息つ
きたい方にもおすすすめの施
設です。

○大雪山層雲峡黒岳ロープ ウェイ



大雪山系の一つでもあ
る標高1984mの黒岳
は、ロープウェイとリフト
が完備されており、7合目
(1520m)まで約30分
で登ることができると、
登山者だけでなく多くの観
光客で賑わう秀峰です。四
季折々の景観を見ることが
でき、冬にはスキーを楽し
むこともできます。

120mの高さから幾筋に
も分かれ、白糸のような優
美な姿で流れ落ちる「銀河
の滝」と、約90mの高さか
ら1本の流れとして力強く
流れる「流星の滝」です。
前者は男滝、後者は女滝と
も呼ばれる夫婦滝は、滝を
背に20分ほど斜面を登る
と「双瀑台」の展望台へ到
着し、2本の滝が絶壁・不
動岩の左右を流れ落ちる姿
を同時に見ることができま
す。マイナスイオンを感じ
ながら見る滝は涼しくもあ
り、迫力満点なのでぜひ一
度足をお運びください。



また、マイナス41℃の極
寒体験コーナーやダイヤモ
ンドダストなど様々な体験
型パビリオンとしても数多
くの魅力を持った施設と
なっています。クリオネ展
示やトイレ美術館など他で
は見ることができないも
の、凍ったバナナの釘打ち
など他では体験できないこ
とがたくさんあります。ま
た、周辺にはクマ牧場やお
土産屋もあるので併せて楽
しめる施設になっていま
す。



また、園内には自然雑
貨やガーデングッズ
を販売しているガーデン
ショップ、軽食や上川町
産の牛乳で作ったジェ
ラートが楽しめるガーデ
ンカフェが併設されてい
る他、フレンチの巨匠・
三國清三氏がオーナーを
務めるレストラン「フラ
テッロ・ディ・ミクニ」と、
宿泊施設「ヴィラ」があり、
こだわりの食材で作られ
た料理や、食後の優雅な
時間を過ごすことができ
ます。大雪山系の雄大な
自然とくつろぎのひと時



ミング」が体験できるプレ
イスペース、コーヒー・コ
コアなどのお飲物とスイ
ツが楽しめるカフェスペ
ース、地元農産物などを使用
したスイーツ(お土産)の
開発・製造を行うスイツ
開発工房、ダイナミックな
大雪山の山並みをイメー
ジした木製バンク(斜面)や
その裏の図書スペースな
ど、子供たちの自由な発想
で遊ぶことのできるフリー
スペースからなります。

また、季節ごとにイベン
トやワークショップを行っ
ており、地域コミュニティ
の場になっています。親子
つ

○銀河の滝・流星の滝

石狩川沿いに24kmにわ
たつて続く崖の中に、日本
の滝100選に選ばれた2
つの名瀑があります。約

ロープウェイの終点には
レストハウス黒岳があり、
黒岳の登山者や展望台の見
学者に休憩場所として親し
まれています。あつさり
しようゆペースのスロープに
舞茸が数多く入った「黒岳
ラーメン」がおすすすめです。
また、朝6時から運行し
ているロープウェイに乗る
と、朝露に濡れた高山植物
や澄んだ空気の中で見る大
雪山の山々などの新しい一
面を発見でき、運が良いと
雲海を見ることができま
す。

○北海道アイスパビリオン 「かみつきー」

上川町開拓120
周年の平成26年
(2014年)にこれ
までのまちのあゆみをお
祝いし、このまちに
住む人や訪れる人が元
気になれるよう応援する
ために誕生しました。

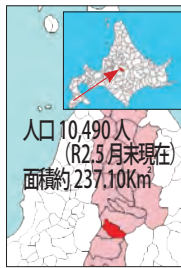


「かみつきー」は、まちのシンボル「エスポワ
ルの鐘」の近くに出没するヒゲマの子(オス)で、
帽子がわりに鐘をかぶっています。とても恥ずかし
がり屋で、ほつぺを真っ赤にして鐘の中にかくれて
しまう習性がありますが、上川町のマスコットキャ
ラクターとしてまちのPR活動を一生懸命がんばっ
ています。

ツイッター、インスタグラム、フェイスブックで
上川町の情報を発信しているので、ぜひご覧ください。

上富良野町とは

概要



上富良野町は、北海道のほぼ中央部に位置し、北から東にかけて美瑛町と新得町、南富良野町、南から西にかけては富良野市と中富良野町に隣接しています。大雪山国立公園の一角をなす十勝岳連峰の麓に広がる町で、三方を山岳地帯に囲まれ、緑輝く山林・原野が総面積の6割以上を占め、丘陵部や平野部に広大な農地が広がり、雄大で美しい自然環境・自然景観、豊かな田園景観が誇ります。特に町内各所から見られる十勝岳の四季折々に変化する

風光明媚な景観は、上富良野町が誇る景観となつていきます。

○歴史、産業、特産品、イベント情報

かみふらのポーク

雄大な十勝岳連峰の麓、大自然に恵まれた上富良野町内では、約3千頭の母豚を飼育し、年間約6万頭にも及ぶ肉豚を出荷しています。上富良野町での美味し

豚の横隔膜の部位で、内臓肉に分類されるローカロリーでヘルシーな肉です。豚1頭からわずか250〜300グラムしか取れない貴重な肉です。

例年6月に山開きとなる十勝岳。毎年安全祈願祭が行われ、その後、記念の登山会が開催されます。安政火口までを往復するコースや、高山植物が多く分布する富良野岳コースなど、距離や難易度が違う4つのコースが設定されるので、体力や経験に合わせて参加することができます。

例年6月に山開きとなる十勝岳。毎年安全祈願祭が行われ、その後、記念の登山会が開催されます。安政火口までを往復するコースや、高山植物が多く分布する富良野岳コースなど、距離や難易度が違う4つのコースが設定されるので、体力や経験に合わせて参加することができます。



かみふらの雪まつり

自衛隊のステージ雪像で、各種ゲームが行われる雪と触れ合える遊びが盛りだくさんのイベントです。観光客も気軽に自由に参加することができます。



上がり、かみふらのポークという地産豚が誕生します。豚さげは、かみふらのポークとして、毎年6月中旬から8月にかけて町内のみで販売されているほか、ふるさと納税の返礼品としても取り扱っています。

日本一早い十勝岳の紅葉は、例年9月下旬から10月上旬が見ごろです。この時期に合わせて国道237号線沿いの見晴台公園では、紅葉と収穫の季節を祝う秋祭りが開催されます。イベント期間中は、町内の各温泉施設でもさまざまなサービスが提供されます。

北の大文字

大晦日から元旦にかけて

町の取組み

十勝岳ジオパーク構想

上富良野町と美瑛町では、十勝岳の地質や地形を保護し、教育や地域振興、観光などに活かしていくため、地域の皆さんとともに十勝岳ジオパーク推進協議会を組織し活動を行っています。

十勝岳の地形
十勝岳には、日本ではこの地域でしか見つかっていないパルサという地形や美しい波状丘陵があり、全国的に見ても珍しいものがあります。

進める会が主体となり、町民主体の口ケ支援や映画化に向けた様々な活動を行っています。

泥流地帯

大正15年の十勝岳噴火に見舞われた上富良野町を舞台にした三浦綾子著の小説。善行が報われず、邪な者が栄える現実に主人公は苦悶しながらも、苦難に満ちた暮らしの中でも強く真つすぐに生きる上富良野の住民たちに導かれ成長していく。報いとは何か、試練とか何かを問い、生きるこのの本質に迫る感動巨編。

ふるさと納税(寄附)
上富良野町は、上富良野町を応援していただける方々を募っています。皆様からいただいた寄附は、上富良野町の将来に活かしていくため、「十勝岳魅力再発見事業」、「ラベンダーのまちづくり事業」、「高齢者福祉推進事業」、「児童生徒の教育振興事業」、「自衛隊との共存共栄のまちづくり事業」に活用させていただきます。



「地域の人が地域に愛着を持つて住み続けたい」と思うことができる郷土学習「ジオパークの農業や観光振興などの経済活動への活用」「働く場の創出」を指し、活動に取り組んでいます。

泥流地帯「映画プロジェクト」

大正15年の十勝岳噴火に見舞われた上富良野町を舞台に人間模様を描いた三浦綾子氏の名作「泥流地帯」を映画化するべく、地元有志による泥流地帯映画化を

担当：上富良野町企画商工観光課企画政策班
0167・45・6994
メール seisaku@town.kamifurano.lg.jp

「ふるさとチヨイス」
「楽天」「ふるなび」「ANA」のふるさと納税のポータルサイトからご覧になれます。

「返礼品の紹介」
盆地ならではの気温の寒暖差が育む甘さの増したメロンなどの果物やアスパラ、じゃがいもなどの野菜、かみふらのポーク、ビールなどが人気です。

担当：上富良野町企画商工観光課企画政策班
電話 0167・45・6994
メール seisaku@town.kamifurano.lg.jp

「四季彩のまち 上富良野町」 観光スポット

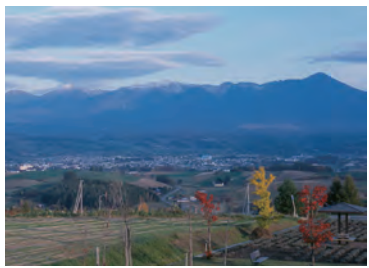
○ラベンダー

上富良野町は、昭和23年、富良野地域で初めて上富良野町の3軒の農家によって香料の原料となるラベンダー栽培が行われたことから、ラベンダー発祥の地とされています。まちの至るところにラベンダー畑が多く点在し、雄大な十勝岳の麓から続く豊かな自然とラベンダーの紫紺の彩り、四季折々の花々が調和した美しい花畑や大らかな田園風景にも恵まれて、訪れる人々を魅了する景観を創り出しています。

○上富良野八景

1999年に上富良野町民の推薦によって選定された「わがまちの景色」で、多くの観光客や地元の人々に親しまれている風景です。ウオーキングやサイクリングでゆっくりと堪能できます。上富良野八景は、深山峠、ジェットコースターの路、千望峠、パノラマロード江花、日の出ラベンダー園、和田草原とどんぐりの郷、旭野やまびこ高地、十勝岳温泉郷の8つです。深山峠は、ラベンダー畑の向こうに、美しく連なる丘陵地帯と雄大な十勝岳連

す。千望峠は、大雪山系がどこまでも見渡せるビュースポットで、夜は星空の観察や上富良野市街地の夜景も楽しめます。



芦別岳、夕張岳を望み、振り返ると日の出公園や市街地と360度の上富良野を眺望できます。

○十勝岳連峰

十勝岳は、北海道の中央、美瑛町、上富良野町、新得町にまたがる標高2077mの活火山です。大雪山国立公園内の十勝岳連峰の主峰です。



旭野やまびこ高地は、噴煙立ち昇る十勝岳の雄姿を間近に眺望できるスポットで、名前のとおり、やまびこ、この名所でもあります。

十勝岳は過去何度か大きな噴火を経験しており、特に大正15年（1926年）5月の大規模な噴火では、発生した火山泥流が美瑛川と富良野川を一気に流下し、上富良野市街に甚大な被害を与えました。この大正15年の噴火を描いたのが、三浦綾子の「泥流地帯」「続・泥流地帯」です。

パノラマロード江花は、ゆるやかな下り坂が約5キロも続く直線道路で、ウオーキングやサイクリングでも満喫できるコースです。



○温泉

十勝岳温泉郷では、山岳の景観を望みながら大自然の中でくつろげます。十勝岳温泉の温泉施設はそれぞれ源泉も泉質も違い、お好みに合わせて楽しめます。また登山口が近いこともあり、毎年多くの登山客で賑わいます。TVドラマ「北の国から」のロケ地として一躍有名になった「吹上露天の湯」は、無色透明の石膏食塩泉。吹上温泉「白

峰の姿が目の前に広がります。

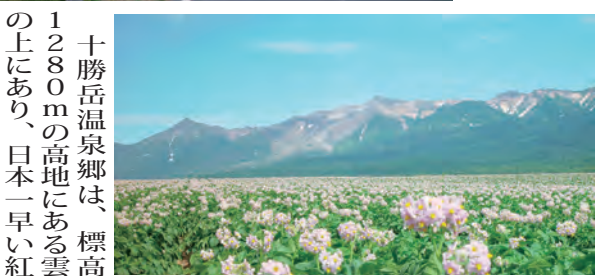


ジェットコースターの路は、アップダウンが2.5キロも続くジェットコースターのように爽快な直線道路で

日の出ラベンダー園は、頂上の展望台から花畑だけでなく、十勝岳連峰、丘陵地帯などの上富良野の景観を一望できます。



は、東に十勝岳連峰、南に

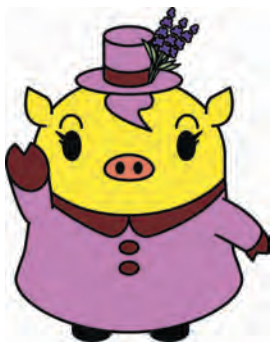


十勝岳温泉郷は、標高1280mの高地にある雲の上であり、日本一早い紅



○町のキャラクター紹介 ・ゆるキャラ「らべとん」

上富良野町は「ラベンダー」と「豚サガリ」の町だと広く知ってもらうために、キャラクターへの投票と名前を公募し、上富良野町ご当地キャラクター選考委員会で審査、選考を行い、2013年に誕生しました。名前の由来は、上富良野町を代表する「ラベンダー」と「豚サガリ」を象徴し、ラベンダーの「らべ」と豚の「とん」で「らべとん」です。



美瑛町とは

概要・歴史

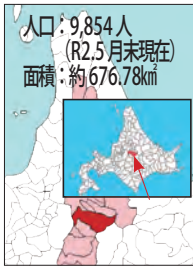
美瑛町は、北海道のほぼ中央に位置する十勝岳連峰の山麓に広がるまちです。河川流域に沿って放射線状に形成された集落では、農業に不向きと言われる丘陵地形にも関わらず、十勝岳連峰の雪どけ水や昼夜の寒暖差などの恵まれた条件を活かして、米、麦、豆類、馬鈴薯、アスパラ、トマトと多彩な農産物の生産活動が営まれています。

○特産品

麦、豆類、馬鈴薯などの農畜産物の他、それらを加えたパンや菓子、乳製品が人気です。また、独自の認定基準をもとに厳選した農畜産物、加工食品、工芸品などの特産品をプレミアムブランド「ビエイティブル商品」として提供しています。

○イベント情報

★丘のまちびえいヘルシーマラソン
6月第2日曜日に開催される美瑛町の夏の一大イベント。毎年5000人以上のランナーが集まり、雄大な十勝岳連峰を背に市街地



資源を活かした観光業を柱に、町内産業の活性化と町外企業や大学との連携を推進し、産業基盤の強化と雇用の拡大につなげていきます。地域経済の循環による新たなビジネスモデルの構築は、これからの地域発展に欠かすことのできない要素であり、ビッグデータを活用した課題分析と政策反映にも取り組んでいます。

★丘のまちびえいセンチュリーライド
美瑛町ならではの丘陵を作り出すアップダウンが特徴のサイクルイベントで、毎年9月に開催されます。丘を越えるたびに眼前に広がる美しい農業景観とエイ

ドステーションで提供される美瑛町自慢の美味しい農産物は、幾度となく起伏を越えるロングライドの疲れを癒します。コースは、2日間で160kmを走破する「美瑛センチュリーライドコース(60km+100km)」、初心者にも易しい「美瑛の丘めぐりコース(30km+25km)」の2種類で、どの上がコースとなるため、ちらか1日のみの参加も可能です。

★丘のまちびえい宮様国際スキーマラソン
白銀の美瑛の丘で繰り広げられるクロスカントリースキー大会。普段は絶対に参加者が集まりません。



町の取組み

美瑛町は多くの地域と同様に人口減少が進んでいるまちであり、この課題を克服し、将来にわたって活力ある地域社会を維持するとともに、町民が幸せに暮らせるまちを目指していくことが求められています。

美瑛町では「誰もが住みたい」「丘のまちびえい」の創造、地域資源がひとしごとを呼び込む循環づくりを基本方向に位置づけ、その実現に向かって4つの戦略に基づいた施策を展開しています。

戦略1 地域産業の活性化により雇用の場を生み出す

基幹産業である農業の持続的な発展と、豊かな自然環境や農村景観などの地域

国内外から年間200万人以上の観光客が訪れる観光地にもなっています。

資源を活かした観光業を柱に、町内産業の活性化と町外企業や大学との連携を推進し、産業基盤の強化と雇用の拡大につなげていきます。地域経済の循環による新たなビジネスモデルの構築は、これからの地域発展に欠かすことのできない要素であり、ビッグデータを活用した課題分析と政策反映にも取り組んでいます。

戦略2 「丘のまちびえい」に新たな人の流れをつくる
美しい農村景観が目される中、多様化する旅行ニーズに応えるべく受入体制の強化を図るとともに、人材還流を高める施策として、企業連携、地域教育、体験観光などの取り組みを加速させ、継続的かつ多様な形でまちに関わる「関係

人口」の創出・拡大を目指していきます。

戦略3 将来にわたって安心して子育てができる環境づくり
若者が仕事を獲得活躍の場を広げることのできる社会になるよう、地域ぐるみで支援するとともに、安心して子どもを産み、子育てを楽しむことのできる環境づくりや一人一人の成長にあつた教育環境の充実・整備を図ります。

戦略4 地域と地域の連携により住民の暮らしを守り、美瑛の魅力を発信する
自助・共助・公助による災害に強いまちづくりを推進するとともに、地域課題の解決や町民サービスの向上につながる町民の提案を

美瑛町では「誰もが住みたい」「丘のまちびえい」の創造、地域資源がひとしごとを呼び込む循環づくりを基本方向に位置づけ、その実現に向かって4つの戦略に基づいた施策を展開しています。

美瑛町では「誰もが住みたい」「丘のまちびえい」の創造、地域資源がひとしごとを呼び込む循環づくりを基本方向に位置づけ、その実現に向かって4つの戦略に基づいた施策を展開しています。

積極的に取り入れ、「みんな一体となった町民参加型」なでつくるまちづくりの、まちづくりに取り組んでい実現に向けて行政と町民が

○ふるさと納税

- 皆さまからいただいた寄附金は、次の5つの事業に活用させていただきます。
- ①自然環境及び景観の保全、形成に関する事業
- ②健康増進及び福祉の向上に関する事業
- ③教育・文化・スポーツ活動の充実に関する事業
- ④まちづくり活動の推進に関する事業
- ⑤その他、目的達成のために必要な事業

寄附者の皆さまからは「自然や景観に感動した」「何度も訪れたいまち」といった温かいメッセージをいただいています。今後も「丘のまちびえい」を愛するたくさんの方々の思いとともに、誰もが訪れたい、住んでみたいと思えるようなまちづくりを目指していきます。

なお、寄附は「ふるさとチョイス」「楽天ふるさと納税」「ふるさとパレット」からお申込みできます。

「十勝岳山麓に広がる丘のまちびえい」

観光スポッポット

○青い池

十勝岳は50万年前から火山活動を繰り返しており、大正15年（1926年）に発生した噴火では積雪を融かした火山泥流が流木を巻き込みながら美瑛川と富良野川を流れ下り、美瑛町と上富良野町に甚大な被害をもたらしました。

近年では昭和63年（1988年）に噴火が発生し、美瑛川に緊急的にブロック堰堤が整備されましたが、そこに水が滞留してできた幻想的な風景が「青い池」として認知され、砂防施設でありながらも国内外から多くの観光客が訪れる人気の観光地となっています。



なお、水面が凍り雪の

積もる冬期間には、青と白を基調にした照明により10分間で一つのストーリーを表現したライトアップを実施しており、夏期とは異なる幻想的な空間を楽しんでいただくことができます。

また、「美瑛川地区かわまちづくり」により市街地から美瑛川沿いにサイクリングコースが整備され、青い池やその上流の白金温泉まで自転車で安全に行き来できるようにしました。道の駅をはじめ、町内にはレンタサイクルがありますので、ぜひご利用ください。

○道の駅びえい「白金ヒルケ」

平成30年（2018年）5月にオープンした町内2

NORTH FACE」が本店しており、近辺にはパークゴルフ場やキャンピングカーサイトが併設されているため、多様な用途でお楽しみいただけます。



○美しい農村景観

美瑛町では、十勝岳の火山活動が創り出したどこまでも波のように続く丘陵地帯を舞台に農業が営まれてきました。季節が進むに連れて多様な作物が様々な色に変化するため「パッチ



ワークの丘」とも呼ばれ、雄大な十勝岳連峰を背景に、どこかヨーロッパのような雰囲気を感じさせる美しい農村景観は訪れる人々を魅了しています。

どんな場所でも写真映える風景のため、携帯電話のカメラでも写真家のように撮影することができ、が、「北西の丘展望公園」や「新栄の丘展望公園」にそれぞれビュースポッポットとなる展望台や視点が設けられており、駐車場やトイレも設置されていることから、土地勘のない方も安心して丘めぐりが楽しめます。また、7〜9月の時期には、「四季彩の丘」や「ぜるぶの丘」にて、広大な敷地一面に広がる花畑を眺めることができます。

ただし、農村景観を生み出す農地は、農家の方が日々丹精込めて作物を育てている場所です。最近では、農地に立ち入る観光客も多く、踏み込んだ靴底の病害虫等によって作物が病気になることから、周辺一帯の農地や農産物の生産に大きな被害を及ぼす可能性もあります。丘めぐりをされる際は、農家の方々の仕事場であることをご理解いただき、ルールを守って観光を楽しんでください。

ホームページはこちら↓



を歩く「畑DEフットパス」、生でも食べられるとうもろこし「ピュアホワイト」を自身の手でもぎ取りその場でいただく「美瑛でトウキビ収穫体験」、冬には雪の上でサーフィンをしているような「雪板すべり体験」など、四季折々に魅力のあるメニューが盛りだくさんです。ぜひ一度ご体験ください。各メニューの詳細は、丘のまちびえいDMOまでお問い合わせください。

池の水が青く見えるのは、青い池よりも上流にある「硫黄沢川」や「白ひげの滝」等からのアルミニウムを含んだ地下水と美瑛川の水が混ざることでコロイド粒子が発生し、太陽光を浴びて光を反射するためと言われおり、青い池より下流の美瑛川でも水面が青く見ることがあります。

か所目の道の駅。十勝岳山麓の白金温泉街まで続く道十勝岳温泉美瑛線沿いに位置し、周囲には町木である白樺（ドイツ語で「ビルケ」）が美しく樹生していることから、地区の名称と白樺の名をとり「白金ビルケ」と命名されました。

平成6年（1994年）に北海道赤レンガ建築賞を受賞した「旧白金インフォメーションセンター」を建築当時のイメージのままに改修し、新たに「美瑛軟石」「美瑛産のカラマツ材」などの地域資源を使用して増設された施設には、観光コンシェルジュによる観光案内、自然豊かな白金エリアを活用した体験型プログラムが提供されています。

また、施設内には、ハンバーガーショップ「BETWEEN THE BREAD」、アウトドアショップ「THE

体験型アクティビティ

美しい農村景観や豊かな自然、美味しい食など、美瑛町の魅力はからだ全体で感じることで、より満喫していただくことができます。のんびりと散歩をしながら、景色や自然をゆっくりと楽しみ、その地で獲れた美味しい農産物をいただく。そんな贅沢なアクティビティを美瑛町では用意しています。

○郷土学館「美宙みそら」

丘のまち美瑛の郷土、自然、天文と「美瑛学」を幅広く学べる空間です。タッチパネル式の映像機器を導入しており、展示物の多くはハンズオンスタイルを採用。また、併設された天文台には、光度1等級以上の明るい星を日中でも見ることができ、反射望遠鏡が設置されています。手と目と耳から美瑛の郷土を学ぶことができ、いつ訪れても新しい学びや発見がある何度でも訪れたいような施設です。

また、隣接する役場庁舎の敷地内には、高さ32・4mの「四季の塔」があります。最上階からは、天気が良ければ大雪山連峰までのパノラマをご覧になることができますので、あわせてご利用ください。

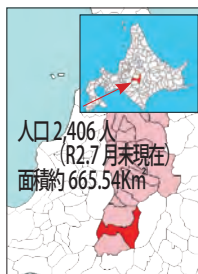


農家の方に特別な許可を受けて、普段は足を踏み入れられない丘の上

南富良野町とは

概要

南富良野町は、北海道のほぼ中央に位置し、東西に貫流する空知川にそって6つの集落から形成された自然豊かな町です。



十勝岳・日高山脈・芦別岳・夕張岳など四方を山々に囲まれ、まちの中央にはかなやま湖（人造湖）が豊かな水を湛えています。

町土の約90%を占める豊かな森林を利用した林業と広大な土地を利用したジャガイモやニンジンなどの農業を基幹産業として発展す

るとともに、近年、富良野やトマム・サホロのリゾー

ト地の麓に位置する恵まれた立地条件のもと、かなやま湖や空知川を活かしてカヌーやラフティングなどの自然体験観光も盛んに行われています。

町章

南富良野の南の文字の中に、フラノのフの字を包含し、金山ダムと町の地形からくる円やかさを形象化しながら全体として町の上昇発展を表現しています。



町の花・町の木

・町の花「ヒナゲシ」

ハマナスは北海道でよく見ることが出来るバラ科の落葉低木です。

夏に紅色や白い花を咲かせ、花の大きさは6cmから8cm程度あり、野生にあるバラの中で一番大きい花です。

・町の木「クルミ」



イベント

・湖水まつり

南富良野町を流れる空知川の水を湛える「かなやま湖」で毎年7月最終週末に開催される「太陽と森と湖の祭典」です。全長700mの大ナイアガラの滝や打ち上げ花火、湖畔キャンプしてイベントやショーが繰



場のステージでは祭典を通り広げられています。

町の取組み

○イトウと暮らす町づくり
幻の魚「イトウ」に出会える町として日本ではじめて保護条例を制定

かなやま湖及び空知川水系に生息する「イトウ」は、町の多様な自然の象徴的存在であり、釣魚や観光等における貴重な価値を有することから平成21年に、日本で初の保護条例を制定しました。

この条例では、豊かな自然の象徴であるイトウが健全な状態で資源維持をしていくことに多面的な価値を見出し、これを町民共有の財産として利用しながら次代に継承するとともに、生物多様性の保全と活力ある

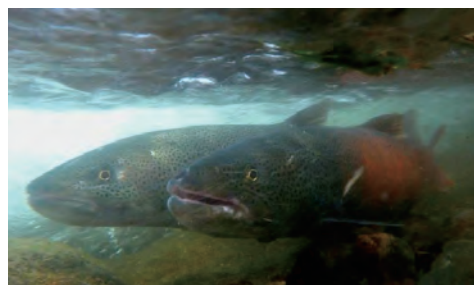
町づくりに寄与することを目的としています。

さらに、イトウを保護することは、その他生物を含めて多様な自然環境全体を守ることに同義です。イトウが生息し得る環境の保全は、物質循環の観点や森林が持つ多面的機能等を充実・維持させることです。このことは地球環境の保全に繋がり、人の生活環境を維持・改善することに寄与します。

以上のことから、イトウを保護することに意義があると考えています。

日本最大の淡水魚といわれており成魚になると全長2メートル超まで大きくなります。道の駅内の水槽でも飼育しておりますので、

お立ち寄りの際は是非ご覧ください。



○ふるさと納税（寄附）
恵まれた自然環境を守りながら、小さなお子さんからお年寄りまで安心して健康に暮らせるまちづくりを進めています。これまでにいただいた寄附は、保育所の備品購入や防災用備蓄用品購入など、より良い環境づくりや未来に繋がる整備費に活用させていただいております。今後とも皆さまの温かい応援の声をいただければ、また地域の特産などのPRとしても力を入れていきますので、是非チェックしてみてください。

「返礼品の紹介」

○鳥羽農園の手しぼりミニトマトジュース

砂糖などの調味料は一切使用しない完熟ミニトマトだけで作った贅沢な100%ミニトマトジュースです。



栽培、加工まですべてを鳥羽農園で行っており、生産者だからこそできるジュースになっておりとても人気です。担当：南富良野町役場企画課

「大自然と遊べるまち 南富良野町」

観光スポット

○通年でできるアウトドア
体験

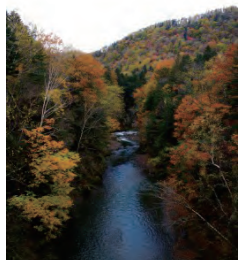
本町はアウトドア観光
素材に恵まれた地域とし
て注目を集めており、夏
はラフティングやカヌー、
冬はカーリングやスノー
シュー、わかさぎ釣りなど
のアクティビティを提供



○幌舞駅（JR幾野駅）
故高倉健さん主演の映画
「ぼっぼや（鉄道員）」の舞
台となった幌舞駅やだるま
食堂など、当時のロケセッ
トのほか幌舞駅内には撮影
時の写真パネルや小道具な
ども展示しています。



景が見られます。



○道の駅 南ふらの
カヌーの船先をイメージ
した外観、幻の魚イトウが
泳ぎ回る水槽、町特産品
いっぱいのお店をどうぞご
覧ください。



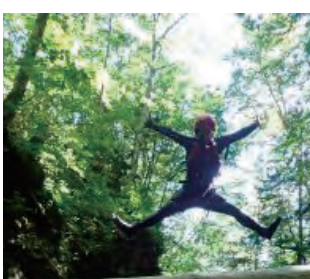
する事業者が集積し、通
年観光を実現しています。
きれいな空知川でラフ
ティングいかがですか？



○十梨別溪谷
金山十梨別溪谷は富良野
地方の南にある絶景スポッ
トです。

金山の市街地を流れる空
知川の支流の十梨別川に
沿って上流に上ると壮観な
溪谷を眺めることができます。
このあたりは昔砂金が
採取されたことで知られて
おり、鉱山町として栄えた
当時のロマンを垣間見るこ
とができます。

キャニオニングを思
いつきり楽しみましょ
う



紅葉シーズンにはモミジ
やイチョウなどの色鮮やか
な木の葉が溪流と見事なコ
ントラストでより美しい風



○かなやま湖

かなやま湖は富良野市の
南部にある南富良野町の人
造湖。金山ダムが1967
年に完成して生まれまし
た。北海道道465号に
沿って東西に細長い湖です
が、湛水面積が2.9km²で、日
本で8番目に広いダム湖で
す。また、金山ダムは北海
道唯一の中空重力式コンク
リートダムで、高さが約57



mあります。ダム湖百選に
も選ばれました。
春は新緑、夏はラベン
ダー、秋には紅葉を水面に
写し、冬には一面白銀の世
界となり四季折々の彩りを
見せてくれます。湖畔には
ラベンダー園が整備されて
おり、湖と山々を背景に新
婚旅行者の写真撮影ポイン
トとなっております。
湖畔にあるキャンプ場は
も備し湖畔キャンプ場を見
下ろす高台に位置しており
ます。周辺には北海道産カ
ラマツからなる・ログホテ
ルラーチ本館と9棟のコ
テージ、日帰り入浴ができ
るかなやま湖保養センター
もなどの観光施設も充実し
ております。例年7月
の最終土曜日には、「かなや
ま湖水まつり」を開催



テント500張のフリーサ
イト、800台の駐車場を700メートルにもおよぶ
完備した自然豊かな快適で
広大なキャンプ場です。隣
接しているオートキャンプ

○町のキャラクター紹介
・イメージキャラクター「南ちゃん」

2018年に町制施行50周年を記念して、ゆる
キャラ「南ちゃん」が誕生。カーリングのスト
ルをモチーフにした帽子をかぶり、カヌーのパド
ルの髪飾り、じゃがいものシュシュで髪を束ね、
人參の洋服、トウモロコシのポシエットを身に着
けるなど、まちの特色をギュッと詰め込んでおり
ます。

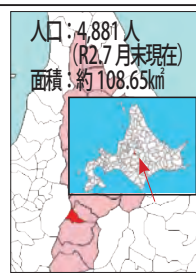


中富良野町とは

概要・歴史

北海道のほぼ中央の富良野盆地に位置し、自然、花、農産物に恵まれた町です。まちの中央部は平坦で広々と開けており、東北から南西に向かってゆるやかな傾斜を持っています。

気候は、北海道の内陸部にあり、盆地状の地形で内陸的特性を有し、冬の厳寒と夏の酷暑という極端な二面を持ち合わせており、農業気象としては最適で、気候・風土ともに恵まれています。



◎味覚

中富良野町は豊かな農業地帯となっており、肥沃な大地からメロン、玉ねぎ、アスパラガス、じゅがいも、スイートコーンやクリン米などが生産され、北国の農産物の宝庫と言われています。

※イベント情報

四季を感じる個性的なイベントがあるのも中富良野町の魅力のひとつです。まちの活気や人々の熱気を感じながら、旬の魅力を楽しむことができます。イベントに参加し、町民や観光客の方とふれあい、まちの雰囲気を感じることも醍醐味のひとつです。

◎なかふらのランデブーまつり&花火大会
毎年ランデブーの開花時



期に合わせて7月中旬に開催されるまち一番のイベントで、中富良野の夏の賑わいは最高潮に達します。様々なステージショーなどがおこなわれ、花火大会では花畑から打ち上がる花火が圧巻です。

◎納涼まつり



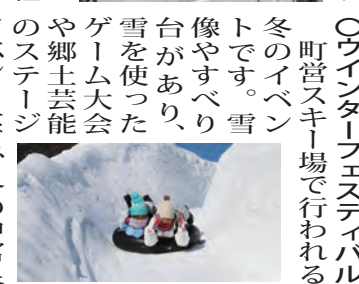
お盆の時期に役場裏の駐車場で行われ、イベントの目玉である「団体仮装懸賞盆踊り大会」では、毎年多くの参加者が団体で仮装し

入賞を目指します。また、子供も楽しめる「こども盆踊り」も行われます。

◎なかふらのサイクリング



秋の中富良野町内を自転車で爽快地にまわるサイクリングイベントです。「ロングライドコース(町内の7か所のチェックポイント経由で約50〜60kmの走行、体験ミッション2つあり、多量のアップ・ダウンヒル有)」と「のんびりライドコース(4か所をまわって4つの体験ミッションをこなして約20〜25kmの走行)の2種が行われます。



中富良野産米ゆきひかりからつくられた純米酒「法螺吹(ほらふき)」をはじめ、手づくり料理や歌謡イベントです。

◎地酒まつり

中富良野産米ゆきひかりからつくられた純米酒「法螺吹(ほらふき)」をはじめ、手づくり料理や歌謡イベントです。

町の取組み

「クリーン・グリーン
輝く未来 笑顔あふれる
なかふらの」

中富良野町は「グリーン・グリーン 輝く未来 笑顔あふれるなかふらの」

グリーン 輝く未来 笑顔あふれるなかふらのの「小さな将来像に掲げ、「小さくてもキラリと光り輝く自立のまち、笑顔の絶えないなかふらの」の実現に向けて、まちづくりを進めています。そのために次の政策(安心して暮らせる福祉・介護体制の充実、子育ての環境整備、担い手の育成・確保と創造的な農業経営の展開、商工業機能の強化・観光と交流資源の充実)を重点として取り組んでいます。

「安心して暮らせる福祉・介護体制の充実、子育ての環境整備」
町民の健康・安心を図るため、生活習慣病等の予防に向けた特定健康診断及び保健指導の実施、安心して子どもを生み育てられる環境づくりに取り組んでいます。

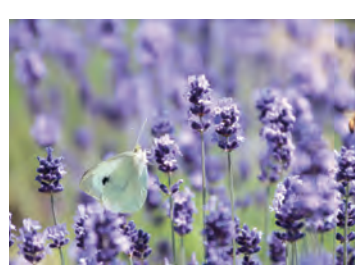
「担い手の育成・確保と創造的な農業経営の展開」
農業意欲を持った新規参入者、農業生産法人などの担い手の育成・確保の推進、特別栽培農産物・有機農産

将来像のキーワードのグリーン・グリーンは「なか

ふらの」の大地の清潔さ、自然の色彩、さわやかさを込めたもので、小さくてもキラリと光輝く自立のまちと、人々が助け合い支え合う笑顔の絶えない「なかふらの」を表現しています。

「商工業機能の強化・観光と交流資源の充実」
地域密着型サービスの展開、商品開発、観光ガイドやボランティアの育成、観光イベントや交流資源のネットワーク化を推進します。日本全国の9都市で「フ

ラワー都市交流連絡協議会」を組織し「花のまちづくり」を進め、連帯事業を展開しています。



さと納税の返礼品としても評判のジンギスカンで「パーベキュー」が行われます。

◎ウィンターフェスティバル



町営スキー場で行われる冬のイベントです。雪像やすべり台があり、雪を使ったゲーム大会や郷土芸能のステージイベントなど、冬の中富良野をお楽しみいただけます。

◎ふるさと納税

中富良野町では、みなさまからいただいた寄附を次の6分野に活用させていただきます。

- ① 「保健・医療の充実に関する事業」
 - ② 「福祉・子育ての充実に関する事業」
 - ③ 「産業の振興に関する事業」
 - ④ 「教育・文化・スポーツの推進に関する事業」
 - ⑤ 「自然環境・交通体系の整備に関する事業」
 - ⑥ 「町長が必要と認める事業」
- 「保健・医療の充実に関する事業」では、中学生まで医療費全額補助事業などに利用させていただいています。

基幹産業が農業の中富良野町では、ふるさと納税返礼品も農作物を多く取り扱っております。お米や玉ねぎ、じゃがいもなどの野菜は、毎年大好評いただいています。



【担当課】総務課まちづくり推進係

TEL: 0167-44-2120

※パンフレット無料送付しております

「花と香りと味覚のまち なかふらの」

観光スポット

○町営ラベンダー園



中富良野町市街地の西側にある町営ラベンダー園は、シーズンになるとラ

絶景と香りを楽しむことができます。町営ラベンダー園で観ることができる品種は、濃紫早咲(のうしはやざき)、おかむらさき、美郷雪華(みさとせつか)、ラバンジンです。

○なかふらのフラワーパーク

町の開基100年に合わせて作られた、町営ラベンダー園に隣接する公園です。園内では噴水、多種多様な花々、町木「こぶし」や桜などを楽しむことができます。憩いの場です。

この「こぶし」は町花同様に、開基90年記念事業の一環として、町木に選定され、4月下旬から5月上旬にかけて大きな白い花を咲かせます。空に向かって可憐に咲く6枚の花弁は、中富良野の春の訪れを告げるまちなしのシンボルです。

交流・産業

○フラワー都市交流連絡協議会

フラワー都市交流連絡協議会とは、花をまちづくりのシンボルにし、活力と安らぎのある住みよいまちづくりを目指す全国9都市の花のまちが集まったものです。魅力ある地域づくりを図ることを目的とし、交流訪問事業や各都市間の花苗の交換、交流物産展、東日本大震災被災地へのシンボル花の提供などをおこなっています。

加盟9都市・・・北海道中富良野町、山形県長井市、富山県砺波市、岐阜県大野町、静岡県下田市、兵庫県宝塚市、山口県萩市、福岡県久留米市、鹿児島県和泊町

○「グリーン農業推進の町」宣言

基幹産業である農業は、豊かにひろがる緑の大地と清流に恵まれた立地条件を生かし、国民に安全な食糧を供給する産業としての使命だけでなく、環境及び国土保全等きれいな空気や水の供給機能も備えており、美しい自然と調和した心豊かなまちづくりのため重要な役割を担っています。

よって、中富良野町は、米等主要な食糧の安定供給を図り、豊かな自然環境を生かしたグリーン農業を展開するため、「グリーン農業推進の町」を宣言します。減農薬、減化学肥料を基本とします。土づくり等適切な栽培管理に努めます。安全で良質な農畜産物の生産を確立します。



ベンダーやサルビアなど色とりどりの花々が楽しめる観光スポットです。

観光リフト(冬季はスキー場リフトとして使用)を利用し、頂上から見る景色は格別で、紫色のラベンダーやサルビア、ベゴニア、マリーゴールドなどのカラフルな花畑、

○中富良野森林公園

中富良野駅から約1.5kmの場所に広がる里山の自然が広がる森林公園。春にはチューリップが満開になり秋には紅葉に囲まれた静かな空間を気軽に散策できる特別な場所です。夏季はキャンプ場が開かれ、多くの方にご利用をいただいています。

○町営スキー場

町営ラベンダー園は冬季にはスキー場として利用されます。夏はラベンダー、冬はウインタースポーツと、季節を通じて多くの方に楽しんでいただいております。毎年2月頃には「ウインターフェスティバル」が開催されます。

プロフィール

○町のイメージキャラクター紹介「ラベンダーの妖精」

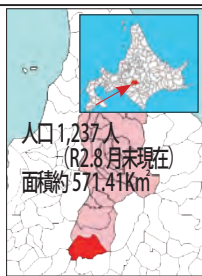
「ラベンダーの妖精」は、平成7年の中富良野町開基100年記念事業で、まちのイメージキャラクターとして誕生しました。

誕生・・・平成7年7月7日
性格・・・優しい、のんびり、おっとり、清潔好き
好きな色・・・紫、緑
モットー・・・中富良野のラベンダーを世界中の人に観てもらいたい
北星山ラベンダー園に住んでいます。たまにしか姿を現さないので出会えた方はラッキー!

ラベンダーの妖精は帽子とエプロンに町花ラベンダーを飾り、服は中富良野町特産のメロンをイメージしています。



占冠村とは



豊かな森、美しい川、おいしい山菜や農産物、そして何より心を癒してくれる村民のあたたかい笑顔。都会のような便利なものは何もありませんが、生きるために必要な豊かさがここにはあります。

・木工クラフト製品(ククルシロップです。2018年には農林水産省が主催する「フード・アクション・ニッポンアワード2018」で受賞10産品に選定されています。

・イベント情報
8月の第1土日に行われる占冠村最大のお祭りです。土曜日に行われる前夜祭では、豪華景品が人気の大抽選会や大迫力の花火大会が行われます。たつき、審査員が試食して評価します。最優秀賞に選ばれた作品は「星野リゾー」の「トマム」内のレストラで提供されるほか、出場者全員に占冠村の特産品が贈呈されます。

占冠村は、北海道のほぼ中心、上川総合振興局管内の最南端に位置し、村界はほとんど分水嶺から成り立っています。面積は東京23区とほぼ同じ大きさで、その約94%が森林という豊かな自然に囲まれた小さな村です。冬は寒さが厳しく、時にはマイナス30℃を下回る朝もあります。

○主要産業
占冠村の主要産業は、農業、林業、そしてトマムリゾートを中心とした観光業です。令和元年度の村の観光入込客数は約153万人、外国人宿泊者数は約11万人と、毎年多くの観光客の方々を訪れています。

○特産品
・メープルシロップ
・山菜加工品(水煮製品、三升漬、みそ煮など)
・エゾ鹿肉加工品(ジャーキー、生ハム、缶詰など)

「100%占冠村産メープルシロップ」「トベニワッカ」名前はアイヌ語に由来しており、「トベニ」が占冠村の村木であるイタヤカエデ、「ニワッカ」が樹液という意味で、その2つを組合せて「トベニワッカ」と名付けられました。イタヤカエデの樹液は、春先の3〜4月のわずかひと月間しか採取できない貴重なものであり、採取された樹液は占冠村の間伐材で作られた薪を使用し、自家製の薪ボイラーで長時間煮詰めて作られた100%占冠村産のメープルシロップです。

占冠村では、「生まれて良かった」「育って良かった」「暮らして良かった」と思える村づくりをめざし、村政執行の基本方針として、1. 持続可能な地域づくり、2. 安全で安心な暮らしを守る基盤づくり、3. 未来を託す子どもの環境づくりの3つの方針を柱に取り組みを行っています。

病に対応できる救急医療や地域交通体系などの住民ニーズに即した行政サービスに努めること、また、予期しない災害に対応するためには地域防災力を高めることが必要であるため、様々な分野で定着されつつある地域協働ボランティア活動に対し必要な支援を行っています。

今年度は中央地区に新しい保育所を建設し、子育て環境を支援する子育て包括支援制度も開始しました。また、従来からの医療費助成や周産期医療、母子保健の拡充を図ります。

村の取り組み

占冠村では、「生まれて良かった」「育って良かった」「暮らして良かった」と思える村づくりをめざし、村政執行の基本方針として、1. 持続可能な地域づくり、2. 安全で安心な暮らしを守る基盤づくり、3. 未来を託す子どもの環境づくりの3つの方針を柱に取り組みを行っています。

1. 持続可能な地域づくり
基幹産業である農業、林業、観光業を中心に経済循環を図る取り組みを進めています。農業については、新規就農者への支援や、小規模土地改良・農業用施設整備を希望する農業者への支援を行っています。林業については、村内事業者による

「ふるさと納税(寄附)」
占冠村に元気を与えてくださるみなさんの応援を募っています。18歳までの村民医療費無料化や保育施設の充実など、村の将来を担う子どもたちのための環境づくりを積極的に推進しています。

2. 「安全で安心な暮らしを守る基盤づくり」
地域医療や地域福祉、急

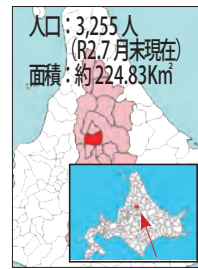
2. 「安全で安心な暮らしを守る基盤づくり」
地域医療や地域福祉、急



詳しくは「ふるさとチョイス 占冠村」で検索

和寒町とは

和寒町は北海道の中心からやや北に位置しており、旭川空港から車で約1時間、新千歳空港からも高速道路を利用し、車で約2時間とアクセスが良く、自然豊かなまちです。



●特産品
・作付面積日本一のカボチャ

南瓜作付け面積日本一を期に南瓜の町として力を入れており、「こぶき」「雪化粧」「九重栗イレブン」「ブラックのジョー」「ほっこりうらら」など、様々な種類の南瓜を作付していま

す。

特に近年、注目されている南瓜が「ストライプペポ」という品種です。これは、種を食べる南瓜として栽培されており、種が大きい、外皮がありません。種には、アーモンドの約2倍の鉄分、亜鉛が含まれています。「わっさむペポナツ」はこの種を乾燥ローストしたもので、香ばしくそのまま食べても、お菓子のトッピングとして使用しても良いです。わっさむ町食と観光情報案内所などでお求めいただけます。

●雪の下で美味しくなる越冬キャベツ

和寒町は、雪が降るのが早く、量も多い気候が特徴です。この気候条件を活かし、秋にキャベツを畑に並べ、冬の間、雪の下に寝かせることで、みずみずしい

新鮮なキャベツとしてさらに美味しくいただくことができるものが「越冬キャベツ」です。

「越冬キャベツ」は偶然の発見から誕生しました。昭和43年の冬から44年の春、秋キャベツが豊作により価格が暴落。農家は出荷をあきらめ畑に放置しました。春になり、畑に放置していたキャベツを見ると、青々として、食べると甘みが増していました。現在では、和寒町の「越冬キャベツ」として、ブランドが確立しています。

●イベント情報
「どんとこい！わっさむ夏まつり」

毎年7月の最終日曜日開催している、和寒町夏の一大イベントです。カブト虫王国として、カブト虫の

一本釣りやカブト虫抽選会があり、お子様の夏休みの思い出にも最適です。他にも、移動動物園やもちまき、焼肉ガーデンなど、ご家族・ご友人で一日中楽しめるイベントになっています。



【全日本玉入れ選手権】
運動会でお馴染みの「玉入れ」をルール化し、ニュースポーツとして和寒町で誕生しました。全日本玉入れ選手権では、100個の玉をバスケットに入れるまでのタイムを競い合います。全国各地から集結する選手と応援団により、熱い戦いが繰り広げられます。

【極寒フェスティバル】
冬の最低気温がマイナス30℃にもなることがある和寒町の冬を楽しくイベントです。スノーラフティング体験やジャンボ滑り台のほか、千切り越冬キャベツの早食い競争などのステイイベントも充実した、冬の恵みを存分に堪能できるイベントです。



【パンプキンフェスティバル】
南瓜作付け日本一を期に始まった、秋の収穫を祝うイベントです。南瓜汁や南瓜コロッケなどの南瓜料理を堪能できるほか、和寒町の農産物も並びます。南瓜つかみ取りや南瓜のお神輿など、南瓜づくしのイベントです。



町の取組み

○結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり

和寒町では、結婚から出産、子育ての希望をかなえることを目標に、結婚から出産、育児までの切れ目ない支援を行っています。和寒町にお住まいの方がご結婚され、結婚後、住居を町内に構えるときには、お二人の結婚を祝福するとともに、和寒町の将来を担う2人が活気に満ちた地域社会を築いていただくため、5万円をお祝いとしてお渡ししています。

また、妊娠期間においても、妊産婦健診料の助成や不妊治療費の助成など母子保健医療の充実を図り、赤ちゃんが誕生すると、お祝いとして10万円をお渡しする「にれっこ祝金」事業の

実施、予防接種費用の助成や産後ケアも実施し、安心して子供を産み育てる環境を整えています。

教育の分野においても、未来のまちづくりを担う児童・生徒の視野の拡大と広い見識、豊かな感性を身につけ、育てるために国際交流等に関する助成も行っており、和寒中学校2年生が4泊5日で台湾の研修に行っています。

和寒町では、安心して結婚・出産・子育てができる環境が整っており、今後もさらに充実させていけるよう取り組みを進めています。



和寒町の町章



特産品の一つである種を食べるカボチャ「ストライプペポ」。外観はハロウィンの装飾に使われることが多い。



雪の下に寝かせることにより、みずみずしさと甘さが増した「越冬キャベツ」

○ふるさと納税

和寒町では、ふるさと応援寄付金の使い道を、「地域医療を支える事業」や「和寒町「塩狩駅」存続プロジェクト」、「塩狩峠地域周辺整備事業」など、9つからお選びいただけます。和寒町の豊かな自然環境を次世代に引き継ぎ、魅力あるまちづくりを進めます。

返礼品として、特産品の「トマトジュース」やタレが美味しい「和寒ジンギスカン」、塩狩峠で育った「塩狩サフォーク」「和寒産メロン」など数多く取り扱っております。

ふるさと納税の申し込みは、「ふるさとチョイス」や「さとふる」、「ふるなび」、「楽天市場」のほか、電話、FAXでのお申し込みも可能です。「ふるさと納税 和寒町」で検索！

お問い合わせは、和寒町役場総務課ふるさと納税担当（0165-32-2421）までお願いいたします。



和寒産メロン



塩狩サフォーク

「自然の恵み野 和寒町」

観光スポット

○塩狩峠記念館

和寒町にある北の玄関口「塩狩峠」に建つ「塩狩峠記念館」は、和寒町を代表する観光スポットの一つです。



作家「三浦綾子」さんの旧宅を復元しており、昭和39年、朝日新聞社の1千万円懸賞に小説「氷点」が入賞し、その後、小説「塩狩峠」や「道ありき」など、数々の代表作を執筆してきた三浦文学の原点ともいえる建物です。

記念館内部は、数々の作品が誕生した当時の様子を可能な限り再現しており、小説「氷点」を執筆した部屋やこれまでの「作家三浦綾子の歩み」を示すパネルの展示、小説「塩狩峠」にまつわる資料の展示スペースなど、三浦文学に深く触れることができます。

個以上のアイスクャンドルが輝く風景は、幻想的に塩狩峠を彩ります。



○塩狩峠一目千本桜

JR塩狩峠のすぐ向かい、塩狩峠にある「塩狩峠一目千本桜」は春の一大観光スポットです。

毎年、5月中旬頃に見ごろを迎え、見渡す限りの桜が咲き誇ります。昔から、塩狩峠は桜の名所として知られており、1600本を超える桜が咲

き誇る様は、圧巻で峠一面を桜色に彩ります。JR塩狩峠もすぐそばですので、JRと桜をセットで楽しむことができます。

○和寒町東山スキー場

国道40号線沿いに位置している「和寒町東山スキー場」は、上質なパウダースノーのゲレンデで、初級者から上級者まで楽しめるコースが特徴です。



第2リフトから滑るダイナミックコースをはじめ、初中級者向けのゴールデンコースや初級者向けの馬の背コースなど、一日中遊べるスキー場となっております。

おりませんが、12000と近くの和寒町総合体育館に隣接した「運動広場コース」の2コースを楽しむことができます。

夏には、塩狩峠記念館から夫婦岩を巡り、自然豊かな和寒町の風景を存分に楽しむことができる全長約5.5kmのフットパスイベントも実施しています。機会があればぜひ一度ご覧いただきたいスポットです。

○三笠山自然公園 こども園

JR和寒駅から車で5分ほどにある「こどもの国」は、ゴーカートや豆汽車、バッテリーカーなどの遊具があり、1日中楽しむことができます。

ができます。

○わっさむ町食と観光情報案内所

和寒町の恵まれた食資源、特産品の紹介・販売や観光情報を広く紹介し、訪れる方が和寒町を存分に楽しむことができるよう営業しています。(毎週月曜日休)

ペアリフト、夜間照明、ロッジも完備しており、ご家族そろってお楽しみいただけます。

○夫婦岩

JR和寒駅から南西約9km、標高333mの山の頂上にある夫婦岩は、明治36年に発見され、大正6年に相馬妙見神社の分霊を祀り、昭和初期まで祭祀が行われていました。



仲良く寄り添うように10mほどの「男岩」と「女岩」、それと小さな「子岩」と呼ばれている3つの岩が立ち並び、いずれも岩を積み重ねたような形状をしています。

時として自然が見せてくれる不思議な造形をして

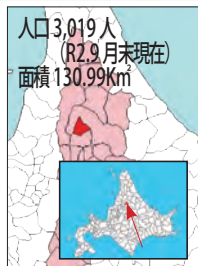
も設置されており、こどもの国を存分に楽しんだあと、アウトドアを満喫することもできます。

三笠山自然公園には、こどもの国以外にも、キャンプ場やパークゴルフ場も設置されており、春は桜夏は深緑、秋は紅葉と四季折々の季節をご家族全員で楽しむことができます。

キャンプ場はバンガローも設置されており、こどもの国を存分に楽しんだあと、アウトドアを満喫することもできます。



概要



剣淵町は北海道の上川地方の北部に位置する畑作・稲作を中心とした農業が基幹産業のまちで、北海道第2の都市である旭川市から車で約60分ほどの場所に位置し、旭川空港まで70分ほどで行けるほどよい田舎町です。町名はアイヌ語の「ケネペツ」(はんの木が多い川)に由来します。町木は「ヤチタモ」、町花は「エゾリンドウ」です。

●特産品
農産物のじゃがいもを中

町の取り組み

「人・夢・大地 やさしさ奏でる絵本の里けんぶち」をまちづくりのテーマに、1. 地域の資源を活用し、豊かなまちをつくる、2. 優しく、健やかな人を育むまちをつくる、3. 自然を感じながら、快適に暮らせるまちをつくる、4. まちづくりを楽しみ合えるまちをつくる、を基本方向に掲げて、まちづくりに取り組んでいます。

1のまちづくり事業としては、基幹産業の農業などの分野から、次代を担う後継者の育成支援や農産物の販路の開拓・拡大のための支援、新たな特産品の開発など地域資源を活かした事業を行ってまいります。

心に、野菜・ジュース、ジーンズカン、スモークドエッグやスモークドチキンなどが有名です。他には町民グループが作る手づくり味噌やでんぶん団子などの加工品も人気です。本格栽培を始めたキヌアもクッキーなどに加工されて新たな特産品として押し出されています。

イベント情報

★ぐるっとライド
平成29年からスタートしたサイクリングイベント。剣淵町をスタートし、1市3町(士別市、幌加内町、和寒町)を巡って道北



を走り抜けます。「食と観光がテーマになっており、各地点のエイドステーションでは、各地それぞれの特産品がメニューを楽しむことができます。コースは60km、110kmと長距離走行のため、達成感は格別です。」



★けんぶち湖水まつり
最も人が集まる剣淵町最大のイベント。桜岡湖のシンボル広場を中心に、町内の団体を中心とした出店が並び、ステージイベントも充実しています。夜には火花が打ち上がり、会場や湖面は火花火によって幻想的に照らされます。

★絵本の里けんぶちスノーフェスタ
市街地で開催される雪を楽しむイベントです。スノーモービルランドやJAによる餅つきイベント、高所作業車体験試乗など好評なイベントが盛りだくさんです。前夜祭には町民の協力によって作られたスノーキャンドルに火を灯し、町内を回る「キャンドルらいとウォーキング」が

毎年7月12日を本祭、13日を後祭として剣淵神社例大祭が開催されます。町内を御神輿が勇壮にねり歩く姿は祭りを盛り上げます。剣淵神楽や剣淵屯田太鼓



特にメインイベントとなる絵本の里大賞授賞式のセレブションには多くの町内外の方が参加し、賑わいを見せます。

2のまちづくり事業としては、子育て及び教育、福祉に関する分野から、子育てに関する支援体制の充実に努めるとともに、絵本の里らしさのある教育の充実、医療・福祉体制強化を町民との協働により進めています。

3のまちづくり事業としては、自然環境に関する分野から、絵本の里としての美しい景観を維持するための体制確保のほか、土地の有効利用や情報環境の整備などを進めています。4のまちづくり事業としては、町民との交流に関する分野から、健全な行政運営に努める、町民の声をまちづくりに活かす取組の充実、また、広報広聴の機会の増加を図

り、町民と行政がまちづくりを楽しみ合いながら協働による取組を進めています。

○札幌剣淵会
札幌剣淵会は、札幌市やその近郊にお住まいの方で、剣淵町出身者など剣淵町にゆかりのある方々を中心に組織され、会員相互の親睦と郷土剣淵町の発展に寄与することを目的に運営されている団体です。

毎年、剣淵町民にも参加を呼びかけて総会と懇親会を開催しています。懇親会では、剣淵町の出来事を知る機会、剣淵町出身のご友人や同期生などと懇親を深める良い機会となっております。

○ふるさと納税(寄附)
剣淵町では、絵本の里づくり事業を含む計6事業に皆様の寄付金を活用させていただいております。当事業では絵本の館の蔵書拡充のために、絵本や一般図書の購入代にあてさせていただきます。

昨年度は剣淵町内にある「VIVAアルパカ牧場」を応援する目的で「アルパカのエサ」という返礼品を創りました。こちらの返礼品にはアルパカの飼育に関する応援メッセージが多く寄せられ、毎月寄付をしてくれる方、SNSなどで宣伝してくれる方がいたり人の温かさを感じております。



「絵本の里 剣淵町」

観光スポット



○道の駅絵本の里けんぶち

入れることができます。店内では40種類以上の焼き立てパンも常時提供されており、常に焼き立てパンの香りが店内を包んでいます。併設のドッグランは無料のため、ペットと一緒に来ても楽しめます。ドッグランはかわいい犬の絵があしらわれた赤い看板が目印です。

○VIVAアルパカ牧場

「道の駅絵本の里けんぶち」は、国道40号線沿いに位置する剣淵町の玄関口です。管内でも非常に高い人気を誇っています。店内は木のぬくもりあふれる造りになっており、子どもが靴を脱いで絵本

遊び疲れたらロッジでひと休みすることもできます。ロッジでは、アルパカの毛を使ったセーターやマフラーなどの商品や、アルパカの故郷である南米ペルーの民芸品や飲み物などを購入することもできます。山頂にある「オトナの秘密基地」という山小屋からは、町全体を眺めることもできて、特別な時間となること間違いなしです。冬はエアボードやジップファイ、それも楽しめて、親子揃って1年中遊ぶことができる牧場です。

○絵本の館

「絵本の館」は、絵本の図書館と美術館が一体となった絵本の里づくりの拠点施設です。館内は土足厳禁で、おうちにいるような



○けんぶち絵本の里家族旅行村
「けんぶち絵本の里家族旅行村」は、貯水池の桜岡湖周辺を旅行者向けの村と位置付け、本町の自然や文化などを楽しめる施設になっています。



岡パークゴルフ場湖畔コース」では、パークゴルフを楽しむことができます。剣淵町唯一の温泉宿泊施設である「剣淵温泉レイクサイド桜岡」では天然温泉でゆっくり疲れを癒やすことができます。シングルルームも増設しており、家族連れだけでなく、ひとり旅の方にもオススメの宿泊

を読めるスペースもあり、親子で楽しめる絵本の里らしい道の駅になっています。 剣淵産じゃがいものレトルトパックが入ったポテバタラーメンを筆頭にスモークドチキン、いもだんごなどの

で営業しており、1年間パズポートを購入することもできます。牧場にいるアルパカたちはギュッと抱きしめることができるほど穏やかなのが特徴で、近くで触れ合える点でも満喫

感覚でくつろぐことができます。ぐるりと一周できる館内の絵本、児童書の蔵書数は約52000冊を超え、大型絵本や布絵本など変わった絵本も楽しめます。もちろん一般書もあります。

木で作られたおままごとの家「ごっこほうす」や約88000個の木の玉が入った「木の玉プール」は子どもの遊び場として大人気です。館内のホールでは絵本の原画展も定期的に行われ、有名絵本作家の貴重な原画を見学することもできます。



遊び疲れたら、館内にある「喫茶らくがき」でお茶や食事することもできます。食事からデザートまでメニューも盛りだくさんで大人から子どもまで幅広い世代が利用することができます。

○町のキャラクター紹介
ゆるキャラ「ぶっちゃん」
剣淵町のキャンペーンガールとして平成25年2月のスノーフェスタでデビューを果たしました。ぶっちゃんには愛称で、本名は「アリエル・プチ・サンタ・ロサ・デ・リマ」。剣淵町姉妹都市である南米ペルーパルカマヨ区出身の女の子で、お祭りが大好き。様々なお祭りに現れます。胸のピンクのハートに触ると幸せが訪れるという噂が、確かめる価値あります。

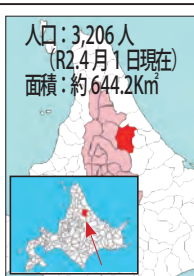


農産物直売所では、安価に旬の野菜を手に入

下川町とは

概要

下川町は、北海道北部に位置し、明治34年の開拓以来豊かな大地と恵まれた森林資源のもと農林業を基幹産業として120年の歴史を刻み発展してきました。



地名は、アイヌ語の「パンケ・ヌカナン」（川下のヌカナン川）を意識したものです。町内を流れる名寄川支流の下川パンケ川の沿岸を、こう呼んでいたと言われています。

面積は644.2km²、東西20km、南北30kmで東京23区（623.0km²）と同程度

度の大きさです。総面積の88%を森林が占めており、林業を主に町の基幹産業として取り組んでいます。気候は内陸性の気候で寒暖の差が激しく、最高気温は約30℃、最低気温は約マイナス30℃と年間の温度差は60℃以上にもなります。降雪は11月下旬頃から3月下旬頃まで続き、冬が長く夏が短い地域です。

イベント情報



「森の恵みをみんなで楽しむ」をコンセプトにした森のジャム・セッションです。森の恵みを大人も子どもも一緒に楽しめます。ワークショップやお洒落な森のマーケットで買い物を楽しみましょう。同時開催されている「EZOCUP」ではチェンソーを使って丸太から彫刻作品を作り出す芸術を間近で見ることが出来ます。



・うどん祭り
町中が熱気に包まれるうどん尽くしの2日間です。

特産品のうどんをメインにしたお店が参戦します。全国で有名なうどん店も出店し、数々のうどんを楽しめます。イベント内で行われる「うどんのつかみ取り」や「うどん早食い競争」が人気です。たくさんのお店に参加して、たくさんのお店のうどんを食べ歩きましょう。



・アイスキャンドルミュージアム
街中に飾られた幻想的なアイスキャンドルの風景

には、下川町が日本発祥の地です。町全体がミュージアムになり、極寒の下川町に暖かな灯がとまります。極寒の空の下で「真冬のB B Q大会」や幻想的なアイスキャンドルの風景を写真におさめて楽しませよう。収めた写真はスマートフォンから応募できる、アイスキャンドルフォトコンテストに応募して受賞を目指します。※2021年アイスキャンドルミュージアムの開催は未定です。



町の取り組み

下川町では、持続可能な地域社会の実現に向けて、経済・環境・社会がバランスのとれた地域づくりを進めてきました。

現在は、「誰ひとり取り残されず、しなやかに強く、幸せに暮らせる持続可能なまち」の将来像のもと、循環型森林経営をはじめ、環境未来都市の具現化事業など地域振興のための様々な取り組みを進めています。

循環型森林経営

昭和28年に、町の基本財産造成、雇用の確保などを目的に、国有林1221haを取得しました。その後も、将来的に安定的な資源供給が期待できる森林を造成していくため、機会あることに森林を取得し、現在は、

町有林面積4700ha、そのうち3000haの人工林で継続的に植林50ha、育林60年、3000haの森林の伐採、植林、育林を繰り返す循環型森林経営により、資源の循環と地域の雇用の場の確保、地元林産業界への資源の安定供給を推進しています。

バイオマスエネルギーの利用

地域資源である森林資源を活かしたエネルギー利用と二酸化炭素の排出削減を図るため、北海道で初めて町内の公共温泉「五味温泉」に木質バイオマスボイラーを導入しました。現在は、11基の木質バイオマスボイラーから30施設に熱を供給しています。

1本の原木から主産物（製材、集成材、円柱材、木炭）、副産物（おが粉、端材、木酢液、排煙）、高付加価値化（破砕炭、燻煙材、精油）と、枝や葉、煙まで森の恵みを余すところなくすべて利用しています。



木質バイオマスボイラー導入施設の一つ

ふるさと納税

下川町を応援していただいた寄附金は、多くの地域が抱える少子高齢化や環境・エネルギーなどの課題をいち早く解決するモデルとなる様々な取り組みや循環型森林経営を中心とした持続可能な森林づくりを進めるための7つの事業に活用させていただきます。

お礼の品は、「フルーツトマト」や「下川産小麦粉『はるゆたか』」、「グリーンアスパラ」、「ホワイトアスパラ」などの農産品、「トマトジュース」や「手延べ麺」などの農産加工品、森林の町ならではの「北海道の香りセット」や「広葉樹・オーダーメイドテーブル」などの下川町の特産品をお送りします。



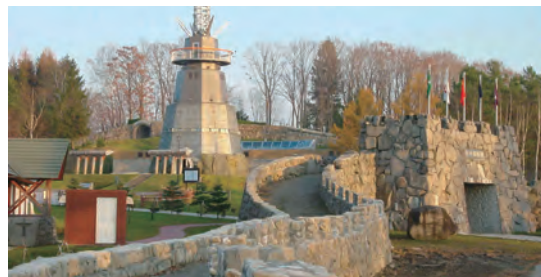
「道北、フクフク」が生まれるまち下川町」 観光ス・ポット

○五味温泉
環境と森林が調和した温泉宿です。五味温泉の歴史は約100年、古くから親しまれてきた理由があります。

下川市街地から約6km、ここは周囲まるごと自然に包まれた温泉です。100年の歴史をもつ、山あいの静かな温泉地。極



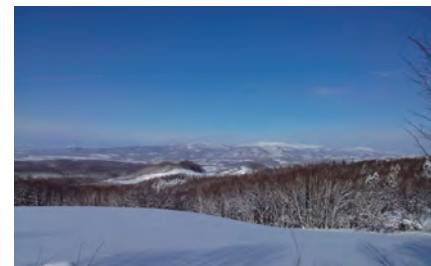
た万里長城があります。市街地から南へ1キロメートル、緩やかなカーブを描く丘陵に突如として延々と続く石の城壁が現れます。それが下川町のシンボル「万里長城」です。当時特別な観光資源のなかった下川町では、日本一の手づくり観光を目指し、



毎年5月第3日曜日に、万里長城祭が開催されています。長かった冬が終わり、町民が待ちわびた春を楽しむ屋外BQイベントです。万里長城祭にふさわしい「もっこレース」などの参加型イベントも充実しています。

アイスキャンドル祭りの時期は、幻想的なキャンドルの灯りを楽しむことができます。公園内の散歩にちよっと疲れた時など、ぜひ、ご家族や友人と一緒にくつろぎの場としてフレペをご利用下さい。

○ふるさと2000年の森
下川町では、ふるさと運動の第3弾として昭和57年と59年の2度にわたり「ふるさと2000年の森会員の募集をしました。これは、都市住民の方に山林を持ち育てる喜び、自然に親しみ森林に投資する楽しみ等を味わっていただきながら、同時に、都市と山村の交流を図ることを目的としたものでした。会員の提案により、翌年、2000年の森が一望できる場所に「2000年の森



上なのは「湯」だけではありません。自然の綾なすくつろぎもまた極上なのです。

泉質は国内では珍しい良質な「含二酸化炭酸水素塩泉」が湧き出る温泉であり、神経症、皮膚病に有効で「美人の湯」として親しまれております。また、炭酸ガスが皮膚粘膜等の毛細血管を拡張し、心臓の拍動を増やさずに血液の循環がよくなるので、高血圧症にも心臓に負担をかけずに血圧を下げるのが出来、ヨーロッパでは『心臓の湯』と称され貴重な温泉と言われれております。露天風呂、サウナ、カラオケルームも完備しています。



実施されました。

積み上げた石には記念として名前を刻み込むというアイデアも生まれました。

2000年には全町2000mが完成し、築城を終えています。

○ガーデンングフォレストフレペ
「フレペ」は、2010年5月に下川町にオープンしました。万里長城を含む桜ヶ丘公園の敷地内にあり、町民や町外のひとびとの交流や休憩スペースとして利用されています。木のぬくもりが溢れる館内には南側に大きな窓があり、日射しが降り注ぐ明るくて心地のよいスペースになっています。大きな窓からは、夏は公園の緑が見え、冬の



展望台が建てられました。ではカラマツも大きくなこの展望台は、2000年、木の先端と大体同じ高の森にちなんで、高さがさの目線となり、あたり12000cmあり、建設当時帯の森林の、四季折々の美2000年の森を一望する美しい景色が楽しめます。ことができたが、現在

○町のキャラクター紹介 ゆるキャラ「しもりん」

下川町で生まれた森林（もり）の妖精です。頭の帽子は下川町のシンボルマーク（CIマーク）になっていて、耳は木になっています。体は雪のように白く、イベントが大好きです。



好奇心旺盛で、頑張り屋な性格です。趣味はアイスキャンドル作り、石積み（特に下川町の万里長城）、スキージャンプの観戦で、休日は五味温泉でゆっくり過ごします。

北海道倶楽部のあゆみ	
昭和 2 年	「北海道倶楽部」の創設（新渡戸稲造などが会員として結成）
昭和 23 年	戦後、新生「北海道倶楽部」の設立総会。会報「北海道倶楽部」を創刊
昭和 37 年	北海道人交歓パーティー開催参加者400人（現在の交流イベント「WeLove Hokkaido」）
昭和 41 年	社団法人北海道倶楽部正式認可
昭和 42 年	北海道倶楽部所有の不動産を処分し北海道開発庁の職員寮寄付 開道 100 年と冬季札幌オリンピックにあたり北海道に国際空港を設置運動
昭和 43 年	北海道倶楽部特別基金募集、北海道東京事務所 4 階増築整備および開道 100 年記念事業の費用拠出
昭和 44 年	北海道勤労青少年センターが発足
昭和 46 年	旭川国立医科大学の誘致運動展開、真駒内屋外スケート場前に札幌オリンピック・モニュメントを建設、寄贈（雪華の像 本郷新制作）
昭和 47 年	第 1 回北海道産業視察ツアーで道内政財界人と交流（平成元年まで 1 4 回実施）
昭和 52 年	有珠山被害義捐金街頭募金 543 万円
平成 2 年	北海道開発庁より 4 0 周年で開発功労表彰
平成 7 年	「北海道開発に関する提言 11 項目」堀北海道知事へ提出
平成 8 年	「北海道・ゆめプラン」提言募集倶楽部は東京事務局として論文募集を担当
平成 9 年	ふるさと活性化フォーラム開催 北海道自然体験学校「開催倶楽部は東京事務局として参加者募集を担当
平成 10 年	創立 50 周年。シンポジウム「北海道を考える」経団連会館で開催
平成 11 年	北海道の自立をめざす提言書「いま、北を考える」を道知事、北海道開発庁長官に提出
平成 12 年	有珠山被害義捐金を募金
平成 14 年	「北海道倶楽部を語る会」を立上げ、倶楽部活性化策などにつき検討
平成 15 年	台風 1 0 号による日高被災者支援募金
平成 20 年	創立 60 周年を記念してロゴマーク制作。ふるさと北海道応援大使、大使館活動開始。ふるさと納税キャンペーン開始公益事業の強化。「ふるさと納税キャンペーン」ギフト制度開始。「北海道情報ラック」開始
平成 21 年	秋葉原で情報展示イベント。広報紙「北海道 Now」増刊号刊行 北海道で提案募集コンテスト開始「北海道のためにわれわれはなにをすべきか」
平成 22 年	北方領土返還推進ブラウンリボンバッジ・早期実現新幹線バッジ頒布開始 北方領土返還ノサップ岬マラソン大会協力開始 代々木北海道フェアに出展開始、情報展示、北方領土返還運動署名
平成 23 年	C D「ちぎれ千島に雲が飛ぶ」頒布開始。1972 年札幌五輪「雪華の像」（本郷新）補修
平成 24 年	ふるさと納税寄附者に感謝状贈呈（交流イベント時）
平成 25 年	新事務所完成・移転。北方領土返還「千島桜」シンボルバッジ 配布開始
平成 26 年	公益社団法人移行、寄附のお願いは始める（寄附税制適用）
平成 27 年	ふるさと納税制度開始から行っていたギフト制度を役割満了のため終了
平成 28 年	「北海道 NOW」に「北海道自治体の紹介」と「information」を追加
平成 29 年	寄附金の「税額控除に係る証明書」を内閣総理大臣より交付される
平成 30 年	創立 70 周年
令和元年	倶楽部が支援していた夕張市の市長が北海道の知事に就任し、「挑戦の大地・北海道」（鈴木直道北海道知事）と題して講演した。
令和 2 年	新型コロナウイルスの影響で、対面のキャンペーン集会、交流イベントが中止となり、WEB 講演会を開催するなど公益事業に多大な影響が出た。

○北海道倶楽部の事業概要

当倶楽部は、昭和 2 年新渡戸稲造ら北海道に縁を持つ首都圏在住者を中心に北海道の開発と発展を目的として東京に設立された任意団体「北海道倶楽部」から始まりました。昭和 41 年に社団法人化し、平成 26 年 1 月 6 日に、公益社団法人に移行しました。

北方領土返還、ふるさと納税等寄附の推進及び北海道新幹線早期実現の 3 大運動を柱とし、北海道及び北海道内の市町村（関係の団体を含む。以下「北海道等」という。）の健全な発展を目的として下記のような公益事業を行っています。

公益目的事業

北海道及び北海道内の市町村など（地域社会）の健全な発展を目的とする事業

（1）北海道等のための広報活動

・広報誌「北海道 NOW」の発行、北海道情報ラックの設置、ホームページなどによる広報活動を行っています。

（2）北海道等が主催・共催・後援する地域活性化事業の支援活動

・北海道等からの要望を取りまとめ、倶楽部が実施しているキャンペーン集会等の場で市町村等の地域活性化に資する事業を支援しています。

・倶楽部の広報誌「北海道 NOW」でも関連する記事を掲載し、地域活性化に資する広報事業を行っています。

（3）北方領土返還運動

・北方領土隣接地域振興対策協議会への支援、北方領土ノサップ岬マラソン大会、北方領土返還の各種イベント、署名活動への協力を行っています。

・シンボルバッジ「ブラウンリボンバッジ」「千島桜バッジ」

「CD ちぎれ千島に雲が飛ぶ」等の頒布を行っています。

・キャンペーン集会の開催、「北海道フェア in 代々木」への出展を行っています。

（4）北海道等へのふるさと納税等寄附の推進運動

・ふるさと納税、寄附等推進のために広報誌及びイベントなどを通しての広報活動を行っています。

（5）北海道新幹線早期実現運動

・「早期実現『新幹線』バッジ」の頒布を行っています。

・キャンペーン集会の開催、「北海道フェア in 代々木」への出展を行っています。

（6）講演会の開催

・当倶楽部の目的と深い関係のあるテーマの講演会等を一般を対象に無料で行っています。

入会希望の方は定款（[HP](#)にあります）をご了承の上
 下記申込書をA4にコピーし、ご記入の上郵送下さい。
 法人の方はHPから申込書を印刷下さい。

年間の公益事業・行事など

（新年交礼会以外、2021年は実施の予定ですがコロナ感染症の影響で変更することがあります。）

新年交礼会開催（1月）

北方領土返還推進運動
 「ブラウンリボンバッジ」キャンペーン、「千島桜」シンボルバッジキャンペーン
 「北海道新幹線早期実現」
 「新幹線/バッジ」キャンペーン
 「ふるさと納税推進」キャンペーンなどの年初スタートを実施。

「北方領土返還要求全国大会」に参加（2月7日）

交流の夕べを開催（8月4日）

キャンペーン、北海道等の広報を目的とした夏の交流事業を実施。

交流イベント「We Love Hokkaido」の開催（旧道産子の会、10月）

北海道関係者、北海道ファン、一般参加者300名、有料1万円
 キャンペーン、公益事業の広報、地域活性化イベントなどを実施。

講演会、シンポジウムの開催（無料、10月15日 WEBで開催）

当倶楽部の公益事業と関連した講演テーマを検討する。一般の参加歓迎（講演テーマ、行政との協調などにより公益性のあるものとし、一般参加を呼びかける。）

代々木北海道フェアへ出展（10月初旬）

代々木公園のイベントスペースに出展
 キャンペーン・情報展示のためイベントに参加、情報展示イベントを実施。
 情報紙「北海道“NOW”」増刊号11万部発行、代々木中心に全国紙折込
 （当倶楽部の公益事業、道内情報広報のキャンペーンなど）

情報紙「北海道“NOW”」の発行・配布

倶楽部の事業に係る広報のため、情報紙「北海道“NOW”」本紙・増刊号 年12回
 を発行。一般配布（有料 月額80円）有り。

北海道情報ラックに北海道情報を配布（毎月、無料）

ホームページで倶楽部公益事業を広報（適時）

その他

倶楽部内交流の同好会の活動に協力。（独立運営・会計、北星会（ゴルフ））

※青字記載の対面型の事業は新型コロナウイルスの影響とオリンピック・パラリンピックのため2020年は中止となった。



「摩周湖」(弟子屈町)

http://www.hokkaido-c.or.jp/_jump/入会/入会案内%20.html
 上記ホームページを参照し、ホームページ上からも、各申込書のダウンロード及び入力送信が出来ます。

正会員

公益社団法人北海道倶楽部

入会申込書 登録事項変更申込書

申込年月日	西暦	年	月	日	印
ふりがな					
氏名					
生年月日 <input type="radio"/> 大 <input type="radio"/> 昭 <input type="radio"/> 平					年 月 日
新規登録、変更は下記に記入/会員抹消は氏名のみ記入					
連絡先は <input type="checkbox"/> 勤務先・ <input type="checkbox"/> 自宅とします。会報、郵送物の送付先を指定。(左記 <input type="checkbox"/> にチェック)					
勤務先	会社名(ふりがな)				
	役職名				
	住所 〒()				
	電話	-	-	FAX	-
業種					
連絡用mail @					
自宅 <small>はチェック 名簿非掲載希望</small>	住所 〒()				
	電話	-	-	FAX	-
出身地	<input type="radio"/> 市 <input type="radio"/> 町 <input type="radio"/> 村	最終学校		北海道との関係	
関心分野	支援 <input type="checkbox"/> 総務 <input type="checkbox"/> 広報 <input type="checkbox"/> 北方領土返還 <input type="checkbox"/> 地域活性化・ふるさと納税 <input type="checkbox"/> 新幹線延伸				
	事業 <input type="checkbox"/> 新年交礼会 <input type="checkbox"/> 交流の夕べ <input type="checkbox"/> 北海道フェア <input type="checkbox"/> 交流イベント				
趣味 <input type="checkbox"/> ゴルフ <input type="checkbox"/> 囲碁 その他()					
紹介会員 (1)			(2)		

事務局使用欄 会員ID _____
 理事会承認日 年 月 日 入力完了日 年 月 日

正会員の入会申込後、直近の理事会での入会承認後、入会のご連絡と入会金（5千円）年会費（15千円）納入のお願いを差し上げます。